モーターボート競走年史

●競艇元年からのあゆみ●

'81—'90

第1章 トピックス

昭和56年

2月19日　連合会副会長に兵庫県競走会向井繁人会長、東京都競走会笹川陽平会長が就任
5月20日　新人選手のあっせん保留に特例
5月25日　モーターボート競走運営懇談会設置
6月3日　女子選手12名デビュー、今村豊選手大健闘
6月18日　法制定30周年記念式典挙行
9月22日　競走会会長会議を開催
10月3日　笹川会長米国マルタ栄誉指揮騎士勲章受賞
10月14日　募集担当者会議（オール女子レースに向け女子を重点に募集）
11月26日　連合会創立30周年記念式典挙行
12月30日　住之江競走場で1日売上29億4,472万円を達成

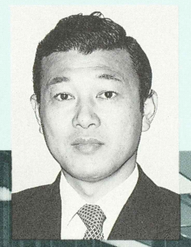
法制定30周年記念式典挙行

2月19日　連合会副会長に兵庫県競走会向井繁人会長 東京都競走会笹川陽平会長が就任

2月13日午前10時より、笹川記念会館8階会議室において連合会第78回臨時総会が開催され、昨年12月4日訪欧帰国直後、成田国際空港で消化管出血のため逝去された藤吉男副会長の後任として、向井繁人兵庫県競走会会長と笹川陽平東京都競走会会長を満場一致で選任。その後、運輸大臣に認可申請が行われ、2月19日付で連合会副会長に就任された。

就任にあたり、笹川副会長は連合会職員を前に「本年度はモーターボート競走発足30周年を迎えるが、業界はこの間先輩各位の熱意と努力により、幾多の困難を乗り越え、今日の隆盛を見るに至った。

しかしながら、業界をとりまく情勢は相当厳しく、今日の隆盛がこのまま推移していくことは考えられない。多くの企業がそうであったように、世の中の変化に対応できなければ業界は衰退してしまう。



いまがモーターボート競走の将来を左右する重大な時期である。そこで、この30周年を契機に業界関係者すべてが発想の転換を行い、新たに第一歩から踏み出すということをしなければならない」旨の挨拶を行った。

5月20日 新人選手のあっせん保留に特例

選手のあっせん保留については、昭和51年5月1日の競走から、敢闘精神に欠ける者ならびに事故多発者に対し、競走意欲の助長と事故防止を図るため、選手出場あっせん保留基準に第8号を加え、低勝率（3.00未満）者、高事故率（1.00以上）者（ただし、出走回数40回未満の者は除く）に、6ヶ月間のあっせんを保留してきた。

しかしながら、同基準改正後の新人選手の初出走後の成績推移をみると、3.00未満の勝率基準に抵触するため、40回未満の出走でその後の出走を回避する者も多く、新人選手の育成を若干阻害している点がみられた。

このため、選手出場あっせん委員会は、同基準の但し書きを改正して新人選手に限り、登録後、競走に出走した2期間（無出走の期間は対象から除外）3.00未満の勝率基準の適用を除外し、新人選手育成に一層の積極化を図ることとなった。

5月25日 モーターボート競走運営懇談会設置

モーターボート競走の発足30年を機に、5月25日、モーターボート競走運営懇談会が設置され、第1回の懇談会が7月1日開催された。目的はモーターボート競走の健全な発展に資することで、競走運営の改善すべき事項を調査・研究すると共に、具体的方策を見出すためのものであった。

次いで、この懇談会の諮問を受けて競走運営改善の具体的な推進方法を検討するため、モーターボート競走運営懇談会小委員会が発足、種々検討を重ねて7月28日、答申書を懇談会へ提出した。これを受け懇談会は、8月7日、第2回目の懇談会を開催し“モーターボート競走運営の今後の方策に関する意見書”をとりまとめた。内容は次の5項目となっている。

①競走場相互間勝舟投票券発売
②前売発売システムの充実
③競走開催の日取り
④番組編成業務
⑤モーターボート整備士の登録制

6月3日　女子選手12名デビュー、今村豊選手大健闘

3月26日、本栖研修所を卒業した第48期新人選手の初出走が、5月6日の浜名湖競走場を皮切り、6月3日の大村競走場を最後に、デビュー戦を終了した。

●政治経済

11月30日／鈴木首相、租税特別措置の見直しなど事実上の増税指示。財界、政府への反発強める。
5月17日／元駐日大使ライシャワー、核搭載の米艦船が日本に寄港していると発言。日本政府、事前協議制度を理由に核持ち込みの事実を否定。
5月1日／乗用車対米輸出規制、168万台で合意。
3月16日／臨時行政調査会（第2次、会長土光敏夫前経団連会長）初会合。

10月28日／東京地裁ロッキード裁判丸紅ルート公判で榎本被告の前夫人三重子、「榎本が5億円受領を認める発言をしていた」と証言。〝蜂のひと刺し〟発言で話題になる。
8月22日／台湾で遠東航空旅客機墜落。作家の向田邦子氏ら日本人十八人死亡。
3月20日／神戸で博覧会「ポートピア'81」開幕（～9月15日、入場者数一六〇〇万人）。
3月2日／中国残留日本人孤児四七人、初の正式来日。二六人が身元判明。

今期は女子選手12名がデビューし、各方面の注目を浴びたが、なかでも藤原純子選手や庄島真知子選手の善戦が目立った。また男子選手では今村豊選手が、５月７日徳山競走場でデビューし初出走ながら初優出、優勝戦では３着に入り勝率7.35と好成績を残し健闘した。

６月18日
法制定30周年記念式典挙行
～今後の大飛躍を期して～

昭和26年６月18日、モーターボート競走法は難産の末、第10回通常国会で呱々の声を上げた。その後幾多の困難を乗り越え、本年で法制定30周年を迎えるに至ったが、これを記念して６月18日午前11時から、笹川記念会館においてモーターボート競走法制定30周年記念式典が開催された。

式典は、運輸省三枝三郎政務次官、自治省北川石松政務次官、総理府川村皓章総務副長官をはじめ各界の来賓、競走関係者等600名の出席を得て、業界発展のため特に顕著なる功績のあった方々に感謝すると共に、現在従事している全関係者が今後の大飛躍を誓うため、全国モーターボート競走施行者協議会、日本船舶振興会、全国競艇施設所有者協議会、日本モーターボート選手会、全国モーターボート競走会連合会の関係５団体の主催により行われた。

これら関係５団体を代表して笹川連合会会長は、次のような挨拶を述べた。

「モーターボート競走はファンの皆様からの預かりものであり、この責任は地球より重いとの精神で、30年間努力してきた。その結果、公営競技の末弟としてスタートしたモーターボート競走が、今日、公営競技中トップの座を占めることができた。

ファンの皆様も、汗と脂の結晶である競走の収益金が、国内はもちろん世界各国で世のため人のために有効かつ適切に使われている

12月13日／ポーランドで戒厳令施行（「連帯」弾圧、ワレサ軟禁）。
9月30日／IOC総会、1988年オリンピック開催地をソウルと決定、立候補の名古屋市落選（52対27）。
2月23日／ローマ法王ヨハネ・パウロ2世来日。広島で平和アピール。
1月25日／中国、四人組裁判で江青（故毛沢東夫人）らに死刑判決。

と認識されており、その総額は今日までに２兆円にも達し、日本の立場は世界的に認められ、国連における信用評価も高まった。これもひとえにファンの皆様のお陰と厚く感謝する次第である。

また本年は、法制定30周年を契機に元の一歩から出直すとの意味から、『競艇元年』と称し、今後もなお一層の努力をしていく所存である。」

この後、笹川代表へ運輸大臣、自治大臣よりモーターボート競走事業の社会に対する貢献が認められ、感謝状の授与が行われた。

続いて笹川代表から特別功労者の表彰が行われた後、来賓の祝辞があり、式典は盛況裡に12時20分終了。引き続きレセプションが開催されて、13時30分に幕を閉じた。

なお、特別功労者は次のとおりであった。

●特別功労者（左から①区分　②氏名　③法制定当時の役職または現職）

運輸省	甘利　昂一	船舶局長
	壺井　玄剛	海運総局調整部長
	今井　栄文	船舶局管理課長
	丸居　幹一	船舶局管理課補佐官
競走会	向井　繁人	兵庫県競走会会長
	坪内　八郎	長崎県競走会初代会長
	一瀬伊太郎	福井県競走会会長
全施協	吉田敬太郎	三代目会長(若松市長)
	志田　光世	初代会長(津市長)
選手会	鍋島　　弘	初代会長

９月22日
競走会会長会議開催

モーターボート競走は最後発の公営競技として発足したにもかかわらず、業界トップの実績を得るまでに成長、めでたく創設以来30年を迎えた。しかし業界をとりまく近況は、売上および入場人員の低下、競技運営上の各種事故の発生等非常に厳しい状況下にある。これを脱却し、業界のより発展を期すためには、積極的な諸施策を打ち出し、全関係者が一丸となってこの難局に対処することが緊急の課題であるとして、連合会では９月22日、各地競走会の会長をはじめ役員37名の出席を得て、競走会会長会議を開催した。

会議に先立ち笹川会長は、「売上が低迷している中、競艇元年を契機として関係者は頭の切り替えを行い、総力を結集して今後のモーターボート競走発展を考えてもらいたい」旨の挨拶を行った。

続いて各競走会会長から売上、入場人員増加対策、今後の業務推進のあり方等について意見が出され、それぞれについて検討がなされた。その結果、競走会業務推進の考え方として、次の項目を確認した。

１．競走場関係者相互の十分なる意志の疎通と連携体制の強化

①競走場最高責任者による定期会議。
②競走場実務担当者による定期会議。
③競走場関係議会議員との懇談会。
上記の会議を通じて当該競走場の運営に係わる重要諸問題につき、相互の認識を深め理解を得る。

２．各競走場の売上目標の設定と、売上向上対策委員会の設置

☆大関貴ノ花、在位五〇場所の最長記録を残して引退。
☆5大都市でタクシー料金値上げ、基本料金430円へ☆宅配便が郵便小包みの取扱数を抜く。
☆アラレちゃんや機動戦士ガンダムなどキャラクター玩具大流行。

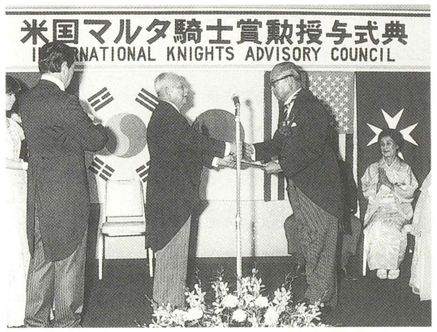
3．競走会業務の拡大と体制の強化

委託業務の趣旨を十分に勘案し、番組編成業務・広報等可能な範囲で業務の協力を行うとともに拡大を図る。併せて職場教育・訓練の強化を図る。

この会議の意見については、10月28日開催された連合会常任役員会に付議され、その推進方を決定し、続いて開催された全国競走会懇談会において競走会の今後の重点施策として積極的に推進するとの意見の一致をみた。

10月3日　笹川会長 米国マルタ栄誉指揮騎士勲章受賞

10月3日午後、国土庁大臣室において米国マルタ騎士賞勲授与式典が行われ、笹川会長に国際騎士諮問会議総長李康式氏より米国マルタ栄誉指揮騎士称号と勲章が贈られた。



この勲章は、900年の歴史を持つ世界的栄誉のあるもので、世界平和と人類繁栄のために著しい功績をたてた人々に対し授与される。

式典は、国際騎士諮問会議議長で現国務大臣・原健三郎氏の挨拶。続いて勲章授与という進行で行われた。

答辞として笹川会長は、「私は全世界の人々を戦禍から救いたいとの考えから、世界一家・人類兄弟主義を実行しているが、今なお世界各地で戦禍のため尊い人命が失われている。こうした状態が続けば人類は、経済で栄え魂で滅びてしまうだろう。これを救うには義理、人情、礼節を実践する以外に方法はない。この30年間にモーターボート競走の収益金から2兆円を、世のため人のために活用することができたのも、ひとえにモーターボートファンの皆様のお陰である。したがって、今回の受勲は、ファンの皆様の功績であるとともに、私が会長を務めている団体の役職員の功績でもある」旨の挨拶を行った。

10月14日　募集担当者会議 ～オール女子レースに向け 女子を重点に募集～

9月22日に連合会事務局組織規程が一部改正され、選手募集業務が教養一課から広報課へ移管された。それ以来初の募集担当者会議が、10月14日、船舶振興ビル会議室にて開催された。

会議に先立って連合会副会長より、以下の趣旨による挨拶があった。

「今年は競艇元年として、関係者は初心に戻らなければならない。現在、売上低迷を含む諸問題に直面しているが、これをいかに乗り越えさらに飛躍していくかがわれわれに課せられた使命であろう。しかしこれらは草創期の苦労に比べれば万分の一にも充たない。連合会としてもこれらの問題に対しては、諸制度の見直しなど、過去の継続に留まらずこれからの30年に耐え得る運営方法、諸制度を検討している。とくに売上は、これがあってはじめて全ての事業が円滑に進むわけで、今後、連合会が中心になってその向上に鋭意努力していく方針である。

ファンの目も年々高くなり、われわれはファンに満足していただくレースを提供しなければならない。ファンの要求に耐え得る選手を養成するため、募集活動においても単なるポスターの貼付、広告の掲載といった受け身の活動に留まることなく、積極的な姿勢で臨んでいただきたい。

若い人たちの考え方も大きく変化してきているので、自信をもって職場のＰＲ、募集の周知徹底を図ることが、競走のＰＲにつながる。とくに競走のイメージと親近感を高めるため、昭和58年には“オール女子レース”を実施する。したがって当面、女子を重点に募集を行いたい」。

この会議での主な決定・周知事項は次のとおりである。

1．選手、実務者の要員の募集活動を、従来の研修所教養一課より企画部広報課に移管し、競走の広報活動と併せて効率的な活動を行う。

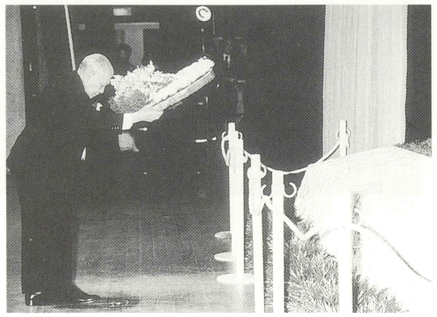
2．オール女子レースの早期実現を図るため昭和58年3月までに女子選手を65名以上養成する。

3．第52期選手養成訓練の第一次入所選考試験（学科）の際に、血圧・視力の2項目について身体検査を実施する。

11月26日 連合会創立30周年記念式典挙行

連合会創立30周年記念式典が、11月26日、笹川記念会館で挙行された。

式典は二部構成で、第一部は慰霊祭。30周年記念式典を見ることなく亡くなられた関係者の方々の霊をなぐさめるため、白く浮かび上がった慰霊碑へ、笹川会長より献花が行われた。続いて、会場を埋めつくした来賓など



☆流行語／蜂のひと刺し☆よろしいんじゃないですか☆なめんなよ（セーラー服や学生服を着た猫のパロディ写真）☆ブリッ子☆熟年☆クリスタル
☆テレビ／おれたちひょうきん族☆おんな太閤記☆北の国から
☆流行歌／「ルビーの指輪」寺尾聡☆「スニーカーブルース」近藤真彦☆「恋人よ」五輪真弓☆「奥飛騨慕情」竜鉄也

★CM／ハエハエカカキンチョール（大日本除虫菊）★ビッブエレキバン（藤本）
★映画／機動戦士ガンダム★エレファント・マン（米）
★書物／「窓ぎわのトットちゃん」黒柳徹子★「人間万事塞翁が丙午」青島幸男

750名が黙禱を捧げ、それぞれ物故者に対する感慨に想いを寄せた。

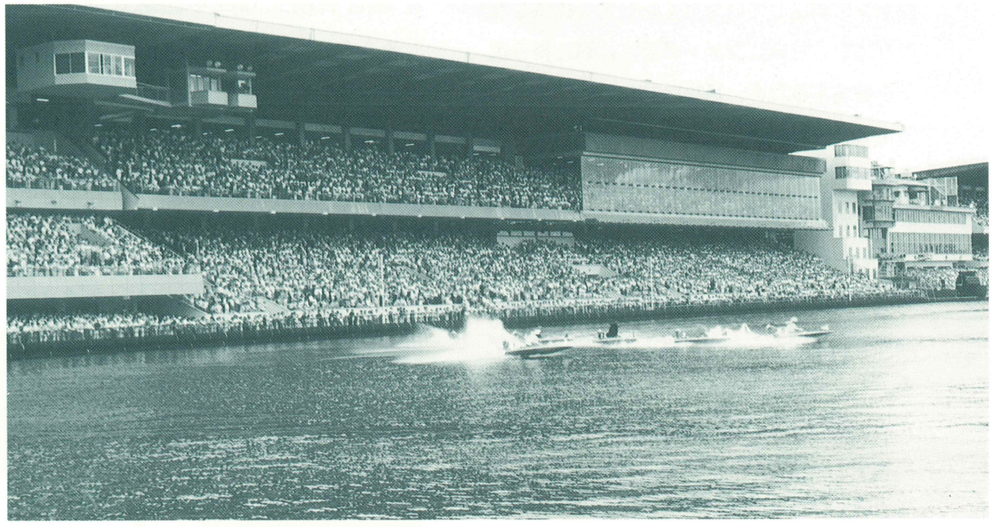
第二部は式典で、笹川会長より他公営競技に対する感謝、ファンの皆様への御礼、そしてモーターボートとファンの皆様のパイプ役を務めていただいているマスコミ関係、あるいは有識者の皆様への御礼があった後、昭和26年11月に連合会創立以来30周年を迎えられたことに感謝の意を表し、各地競走会、関連団体、有識者、マスコミ関係に対し感謝状が贈呈された。

12月30日 住之江競走場で１日売上29億4,472万円を達成

住之江競走場で、12月30日、１レース売上７億0,871万円、１日売上29億4,472万円という艇界新記録を達成した。

モーターボート競走の、昭和55年度までの売上記録は、１レース売上６億8,946万円、１日売上29億1,702万円、節間売上（7日間）108億2,657万円といずれも住之江競走場が記録していたが、１レース売上では１年ぶり１日売上では２年ぶりの記録更新であった。

この日の入場者は59,900人で、「建物がきしむほど……」と形容された。なお、１日売上記録はその後、昭和62年５月７日尼崎競走場で開催された第14回笹川賞競走優勝戦日まで５年５ヶ月にわたって更新されることはなかった。



昭和57年

２月５日 選手関係諸制度委員会答申 ～4大競走に優先出場制度を導入～

現行の選手関係諸規程・制度がファンの要望に沿ったものであるか…、刻々と変化する社会に対応できているか…等を見直すため、連合会会長の諮問機関として選手関係諸制度委員会を設置。昭和56年11月24日から５回にわたり慎重に審議検討したその結果をまとめて、同委員会は２月５日に答申を行った。

答申書では、ファンに直接関係の深い選手級別決定基準、特別競走開催要綱、スタート事故規制、新陳代謝制度等、選手に関係のある制度について問題点を摘出し、積極的な改善を行うことが必要であるとしている。

１．選手級別決定基準

複勝率・定員制度の導入

２．特別競走開催要綱

優先出場制度の導入

３．スタート事故によるあっせん辞退

スタート事故のあっせん辞退だけにより４大特別競走に出場できないときは、当該特別競走終了後辞退させる等。

４．新陳代謝制

委員会等を設置し、諸規程を整備すべきである。

２月22日 選手級別決定基準に複勝率・定員制を導入

選手関係諸制度委員会の答申に基づき、選手級別決定基準の一部改正が２月22日、連合回定例常任役員会で正式決定した。

現行の基準は、１・２着の入着率が低くても、一定の勝率を確保すればA級になれる制

２月５日	選手関係諸制度委員会答申
２月22日	選手級別決定基準に複勝率、定員制を導入
３月３日	鳳凰賞競走で外向前売発売実施
３月20日	向井繁人連合会副会長逝去
３月31日	第１回ファン拡大推進委員会開催
４月１日	連合会本栖研修所実技教官に元選手採用
４月28日	モーターボート競走法施行規則一部改正（特別発売が可能に）
４月30日	笹川会長国連平和賞受賞
５月12日	国連「笹川環境賞」創設へ
６月26日	人身事故防止対策として新型カウリングボート導入
７月１日	モーターボート競走総合企画研究委員会答申
７月10日	科学博、B&G協賛特別競走を実施
８月９日	モーターボート記念競走の特別発売が尼崎・
・10日	若松競走場で行われる
11月25日	全国広報担当者責任者会議
11月29日	救命胴衣検査基準、硬質ヘルメット検査基準、同検査要項一部改正
12月１日	世界義勇消防連盟結成会議開催、笹川会長初代会長に就任

モーターボート競走法施行規則一部改正（特別発売が可能に）

11月27日／中曽根康弘内閣成立。
8月30日／日米安保事務レベル協議会開会（米、3海峡封鎖とシーレーン防空の役割分担を要請）。
5月31日／国連軍縮特別総会に向け、反核署名を行っていた国民運動推進連絡会議、最終集計を二、七五三万九、一一六人と発表。6月10日国連事務総長に提出。
5月28日／政府、215品目の関税引き下げなどの市場解放措置を決定。

度となっている。これを、1・2着の入着率である複勝率をA・B・C級に応じて定め、A級35%以上、B級15%以上とし、その中で勝率の高い者から順に級別を決定し、A級を480名、B級を850名の定員制に、また事故率についてはA・B級とも0.7以下とした。

さらにこの改正に併せ、選手出場あっせん基本方針の一部改正を行い、A級であっても事故率が0.4を超える者は、原則としてB級と同等のあっせん日数とすることとなった。

3月3日
鳳凰賞競走で外向前売発売実施

第17回鳳凰賞競走は、3月4日～9日までの6日間にわたり下関競走場において開催され、売上面で数々の新記録を樹立するなど、盛況裡に幕を閉じた。とくに今回は、業界で最初の「外向前売発売」が実施されたわけで場内前売と外向前売を併用設置し、各8台の発券機の利用状況をみながら流動的に使用する～という形で行われた。結果としては、延べ2,933人の利用者、2,399万円の売上を記録した。

場内を含めた前売合計は、総売上の4%に達したが、最終日には総売上の8.4%を占めたことから、他場でも効果的な設置場所、発売時間帯を考慮して活用すれば十分実効の上がることが実証された。

3月20日
向井繁人連合会副会長逝去

かねてより療養中の向井繁人連合会副会長・兵庫県競走会会長が、3月20日午後6時12分、神戸市中央区の神戸大学付属病院において、心不全のため逝去された。享年79歳。

向井副会長は、昭和34年1月兵庫県競走会会長、同43年5月連合会常任理事、同56年2月連合会副会長に就任され、競走の発展に多大なる貢献をされた。また地域社会の福祉、防火などの事業でも大いに活躍、昭和55年4月には消防・港湾事業への貢献に対し勲四等瑞宝章を受けている。

向井副会長の葬儀は、連合会、兵庫県競走会、中央港運株式会社の合同葬として、4月14日、神戸市の真光寺において実施され、参列者は1,500名の多きにわたった。

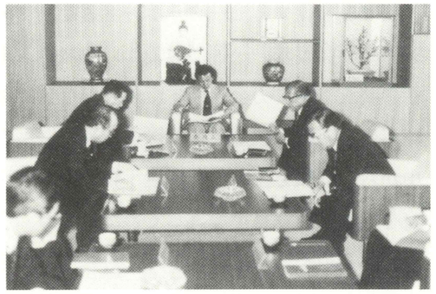
以下は、合同葬の葬儀委員長でもある笹川会長の弔辞の主旨である。

「今日、あなたに決別の辞を述べようとは夢想だにしなかった。想えば、戦争で壊滅的打撃を受けた日本の造船所を復興して海運国家にしたい、併せて海事思想を普及徹底したいという大きな目的のもとに、われわれはモーターボート競走をはじめたのであった。その苦労の中であなたは、昔の軍人精神である“倒れてのち病む”をそのまま実行された。しかし人は一代、名は末代である。どうか、モーターボート関係者でいまは極楽浄土にある諸君……松岡君、長嶋君、鎮西君、吉松君、藤君と共に、モーターボートの限りなき発展を見守っていただきたい。向井繁人君、安らかに。安らかに。」

3月31日
第1回ファン拡大推進委員会開催

ファン拡大推進委員会は、昨今の売上および入場人員の不振の原因を究明し、社会情勢の変化に対応した適切かつ合理的なファン拡大策を立て、モーターボート競走の長期発展に資することを目的に、全施協、全施設協、選手会および連合会の各組織最高責任者が、それぞれの立場を超越した形で審議し、決定したことについては即実行に移すという、強い意志の確認のもとに設立された。

委員長には、互選により連合会笹川良一会長が、副委員長には滝澤委員（倉敷市市長）と笹川委員（連合会副会長）が選出された。以後、この委員会は、業界のすべてにわたって、重要事項の決定・遂行をしていくこととなる。



また、本委員会はファン拡大に係わる専門的事項を調査、研究するための諮問機関として、専門部会「モーターボート競走総合企画研究委員会」を設置すると共に、本委員会が打ち出した諸施策を具現化する機関として各競走場に「競走場企画実行委員会」を設置。施策の反映に即効性をもたせ、中央と各競走場が一体となった組織を確立することとした。

さらに、ファン拡大に係わる具体策について、全関係者に周知徹底を図るべく、全国的規模の「全国企画担当者会議」および「地区別企画担当者会議」を開催することとした。

4月1日　連合会本栖研修所
実技教官に元選手採用

7月6日／中国政府、日本の教科書の中の中国への「侵略」を「進出」とする記述など非難。
6月23日／東北新幹線開業（大宮～盛岡間3時間17分）。
2月9日／日航福岡発羽田行DC－8型機、羽田空港着陸寸前に海に墜落、二四人死亡、一五〇人負傷（機長の逆噴射操作が原因）。
2月8日／東京・永田町のホテルニュージャパンで火災、死亡者三三人（防火設備の欠陥に非難集中）。

11月12日／ポーランド、ワレサ釈放。
11月10日／ブレジネフ書記長死去、後任にアンドロポフ元KGB長官。
6月7日／第2回国連軍縮特別総会開催、反核運動頂点に達す。
1月11日／NATO外相会議、ポーランド問題で対ソ制裁宣言。

年々熾烈化するモーターボート競走、ファンの高度な要求……等に対処し、かつ新人選手の養成訓練に万全を期すため、連合会では昨年来、人格・技量ともに優秀な登録選手の中から、経験を生かした操縦・整備等実技教育を担当する教官を募集していたところ、登録162号新堀一夫選手がこれに応募、採用を決定した。同氏は昭和27年９月の選手登録以来、30年間第一線で活躍しており、選手間の人望も厚い。

この採用決定により、同氏は３月25日選手登録を消除、４月１日付で連合会本栖研修所教養一課実技担当教官として赴任した。なお昭和58年７月１日には、２人目の実技教官として、本田泰三元選手（登録1057号）が採用されている。

４月28日
モーターボート競走法施行規則一部改正　～特別発売が可能に～

モーターボート競走法は、“観る”ことによって海事思想の普及が促進されるという考え方から、その趣旨に「観光事業の振興に寄与する」という面をも有して立法化されている。とくに、海浜の風光景勝の地に内外の遊客を招致し、スリルとスピード感に溢れた競走を行うことを目標としており、施行規則第８条（発売所の場外設置の禁止）が制定された。

これによりモーターボート競走は、競馬、競輪とは異なり、場外舟券の発売を行うことなく、施行者等関係者は競走場の施設改善、環境整備等に努め、より快適かつ明朗な競技の場を提供することによって多数のファンを誘致し、発展を遂げてきたのであった。

しかし今日においては、開催地に限定された舟券の発売方法ではファンのニーズに応えられない情勢となっている。少なくとも全国的規模で行われる４大特別競走については、新たな観点からファンの利便を考慮した、当該競走場以外での発売方式を実現したい。

このような状況下で、来場ファンの確保を図りつつ、また併せてファンの要望に応えるべく、４月28日、“舟券発売方式について”モーターボート競走法施行規則の一部が改正された。これにより、「４大特別競走の準優勝戦、優勝戦に限って特別発売」が可能となった。

４月30日
笹川会長、国連平和賞受賞

国連のデクエヤル事務総長は、５月７日、笹川良一会長に対し、「国連および諸機関の人道的活動、人類の苦悩の軽減に貢献した」として、特別の国連平和賞（国連ピース・メダル）を授与した。

この賞は、平和の推進に際立った功績のあった各界の人に、事務総長が感謝の意を表すために贈るもので、今回の受賞は、人類の強敵である天然痘根絶作戦およびハンセン病撲滅の特別プロジェクトに対し、笹川会長の果たした役割は極めて大きいとして、その活動が高く評価されたことによる。なお、天然痘に関しては1980年５月８日に、根絶宣言がなされている。

授与式はジュネーブで開催されていた世界保険機関（WHO）の年次総会の席上で、マーラー事務局長より直接手渡された。その際マーラー事務局長は、「ミスター笹川は人類すべての苦しみを軽減するため、目ざましい働きをされた。とくに開発途上国で病苦に悩む数百万人を救済する事業に貢献された。」と心から感謝の言葉を述べた。

５月12日
国連「笹川環境賞」創設へ

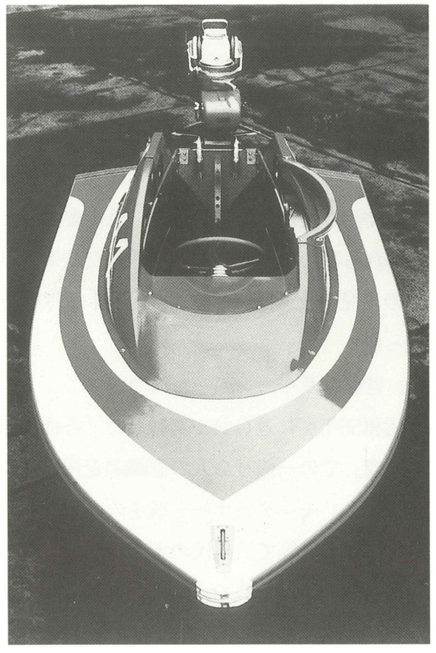
５月12日、国連ナイロビ環境会議３日目の席上、国連環境計画（UNEP）トルバ事務局長は、環境保全に貢献した個人、あるいは団体に与える賞として、かつての「バーレビ賞」に代わり「笹川環境賞」を創設することを発表した。

この“新賞創設”は、笹川会長が国連環境計画の協力要請に応えたものである。

６月26日
人身事故防止対策として新型カウリングボート導入

競走中の選手の人身事故多発は、レースに対するファンの興味を減少させるとともに、競走の信頼を失う原因ともなる。また、選手が怪我などによって長期間欠場することは好ましくなく、関係者は、人身事故の未然防止に関しては競技運営の最重点施策として努力を続けてきた。しかしながら、その努力とは逆に重傷人身事故は増加傾向にあり、昭和55年度70件、56年度52件と発生している。

これら事故の発生原因、内容等を分析する



7月23日／九州北西部・山口県に豪雨。長崎市の死者・行方不明者二九九人。
6月26日／新聞各紙、高校社会科などの教科書検定で「侵略」が「進出」と書き換えられたと報道、問題化。
2月28日／岡本綾子、ゴルフ米公式ツアー（アリゾナコパークラシック）に優勝。

★全国637校の中・高校卒業式で、校内暴力に備え警察官が立ち入り警戒。★500円硬貨発行★テレホンカード使用開始。★新聞・辞典・文庫などの大活字版好評。国鉄のフルムーンパスがヒット。エアロビクス、ゲートボールに人気が高まる。

と、約60%はボートとボートの接触による骨折、打撲、挫傷などとなっている。このため連合会では、人身事故未然防止策の一環として、ボート同士の接触等から少しでも選手を保護するため、コーミング部を従来型より高くし、見た目も美しくスピード感を備えた新型カウリングボート（YM－511型）を開発した。

この新型ボートは、操縦性能等が大きく変わらぬよう、底部は従来と同じ形状にし、操縦席を囲むように耐強度性の大きい積層構造を持つ、強化プラスチック（FRP）で作ったカウリングをつけている。このカウリングを採用した新型ボートは、全国に先がけて6月26日、平和島競走場で使用開始されたが、ファンや関係者には「デザインが新しくなりスピード感があるように見えるし、現代的になった」と好評であった。

7月1日
モーターボート競走総合企画研究委員会答申

ファン拡大推進委員会から本総合企画委員会に諮問された各項目のうち、急を要すると思われる事項について審議を重ねた結果、以下の意見をとりまとめ、第一回目の答申を行った。

1．啓蒙普及キャンペーンについて

昭和56年度に連合会が実施した「各種実態調査」での一般社会人の意識調査報告書によると、モーターボート競走の固定ファンは全体の3％で、国民の大多数は関心を示していない。そこで、積極的に競走のイメージ高揚と好感の獲得、興味の喚起を促し競走場と一般大衆との親近感を強化していくために、競走の啓蒙普及キャンペーンを展開していくことが強く望まれる。

2．競走場別ファン感謝行事について

モーターボート競走の今日の発展は、固定ファン層に支えられての結果であり、今後の競走を支えてくれるのもまた、これらファンによるところが大きい。そこで、日頃の愛顧に感謝するとともに新規ファンの獲得をも期するため、競走場においてファン感謝行事を実施することが、ファン定着補強としても実効あるものと期待される。

3．ファンクラブの結成について

今後とも“ファンあってのモーターボート競走”という基本理念を柱に、健全な大衆娯楽としてモーターボート競走がより多くのファンに愛好・支持され、将来にわたって発展していくため、すみやかに各地競走場にファンクラブを結成。積極的にファンとの交流を図る必要があると思われる。また、ファンクラブ会員の中から、適当な方をモニターに委嘱して、競走運営全般にわたって意見を聴き、積極的にそのニーズに応え、ファンにとってより魅力のある競走の実現を期すーすなわち、モニター制の採用が望まれる。

4．未経験者モニター調査について

モーターボート競走のファン拡大のために若年層を間断なくモニターとして委嘱、その意見や感想を聴き、併せてその生活意識等を調査分析し、若年層ファン導入施策立案の基礎データーとすることは、かつてこのような調査活動の例がないだけに、その成果が大いに期待される。

★流行語／んちゃ（トクタースランプの主人公アラレちゃんの言葉）★ルンルン★ネクラ、ネアカ★逆噴射★ロリコン★風見鶏★女帝★テレビ／大河の一滴★人間万事塞翁が丙午★君は海をみたか★流行歌／「北酒場」細川たかし★「聖田たちのラバイ」岩崎宏美★「待つわ」あみん★「セーラー服と機関銃」薬師丸ひろ子

7月10日
科学博、B&G協賛特別競走を実施

法制定20周年記念の事業として開始されたB&G協賛競走は、昭和57年3月31日で一旦打ち切られていたが、その後全国市町村800有余より海洋センター建設の強い要請があることなどから、モーターボート競走法の施行規則の一部が改正された。

このため業界では「国際科学技術博覧会」「B&G財団」の要請に基づき、特別競走を実施することとなった。

8月9日・10日
モーターボート記念競走特別発売実施

モーターボート競走法施行規則の一部改正（昭和57年4月28日付）により、4大特別競走の準優勝戦・優勝戦の勝舟投票券が、他の競走場でも発売できることになり、蒲郡競走場で開催された第28回モーターボート記念競走において、業界創設以来初の特別発売（8月9日準優勝戦・8月10日優勝戦）が、尼崎および若松競走場において実施された。

特別発売の売上金額は、尼崎6,095万円、若松2,307万円で、合計8,400万円であった。これを本場（蒲郡）との売上金額合計に占める割合でみると12%の占有率となり、予想以上の好成績を上げたものと評価できる。

一方、特別発売を実施した場合、自場分の売上が低下するのではないかとの懸念もあったが、当日の両競走場における1人当たりの平均購買額は、特に顕著な差異がなく、自場分が特別発売に喰われるという現象（いわゆる一升枡理論）は見られなかった。

11月25日
全国広報担当責任者会議

競走に関する広報の重要性がますます高まる中で11月25日、連合会では全国広報担当責任者会議を笹川記念会館において開催した。出席者は、施行者広報担当責任者、競走会広報委員等58名。今後の広報宣伝活動などについて種々検討を重ねた。その結果、昭和58年度の活動の展開として6項目にわたる重点事項を強力に推進していくこととなった。

1．ファンクラブの結成と効果的な運営

ファンの組織化を図り競走場への愛着心を醸成し、ファンの定着補強を図り、会員を通じて新規ファンの誘致を促進するため、ファンクラブの結成と効果的な運営を行う。

2．競走場でのイベント開催

新規ファン（未経験者）にイベントを通じて動機づけを図る。

3．競走場および駐車場など周辺施設の開放

地域社会のイベント等に競走場を開放・提供することにより、競走場の親近感を高めるとともに来場の動機づけを図る。

4．ファンのニーズに沿ったファンサービス

物理的・精神的（接客態度、場内雰囲気等）なファンサービスとともにファンが何を望んでいるか、何を要求しているかを近隣他競走場の策をもよく把握し、ファンのニー

★CM／光のメニュー（松下電気）★バスタイム（祐徳薬品）★ホンダシティ（本田技研）★映画／E・T（米）★鬼龍院花子の生涯★蒲田行進曲★書物／「積み木くずし」穂積隆信★「開幕ベルは華やかに」有吉佐和子★「気づかいのすすめ」鈴木健二

ズに沿ったサービスを実施する。

5．女子レースの実施

女性ファン、新規ファン（未経験者）およびマスコミ関係の関心、来場の動機づけを図るため、女子レースを活発に実施する。

6．地域行事への積極的な参加

地域社会との連帯感を醸成するため、地域で行われる祭り・行事に、競走場や関係団体（者）は積極的に参加する。

11月29日
救命胴衣検査基準、硬質ヘルメット検査基準、同検査要項一部改正
～安全対策具体化進む～

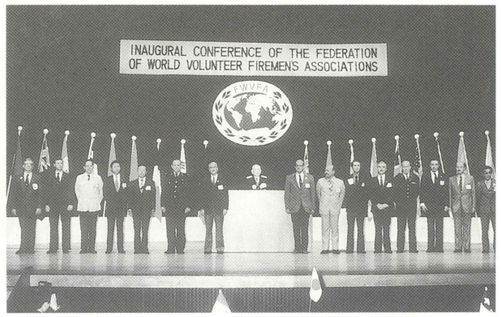
連合会ではレース中の人身事故防止強化を図るため、昭和56年12月に「モーターボート競走安全対策研究委員会」を設けて、救命胴衣、ヘルメット等の防護具類の改良を中心に安全性を高める研究実験を行ってきた。

その結果、従来のカポックに加えFRPと発泡ポリエチレンを素材とした新型救命胴衣、顔面の保護をするためのアゴガードをつけた新型ヘルメットを開発、11月29日の連合会常任役員会において、それぞれの検査基準、検査要領が改正され、全競走場で導入していくことが決定された。

12月1日
世界義勇消防連盟結成会議開催
笹川会長初代会長に就任

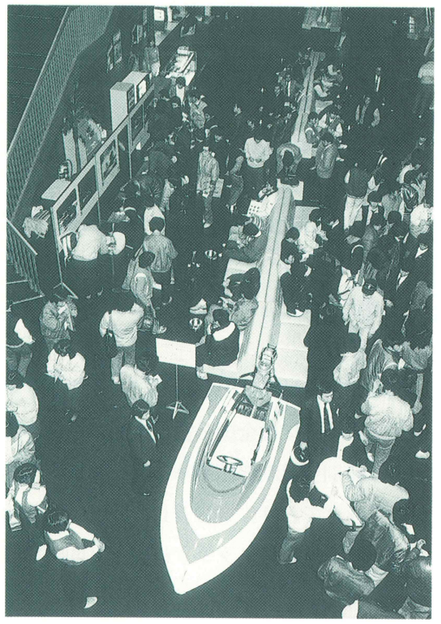
(財)日本消防協会では12月1日、笹川記念会館国際会議場において日本、米国など世界17ケ国の義勇消防関係者、中曽根内閣総理大臣をはじめとする政府高官等、多数の来賓および各都道府県消防協会会長の出席を得て、「世界義勇消防連盟結成会議」を開催した。

会議は、専門の職員以外に、郷土愛護精神により奉仕活動を続けている世界各国の義勇消防団員の相互理解と、親善促進を目的とする世界義勇消防連盟結成のため開かれたもので、各国代表者の紹介、日本消防協会笹川会長挨拶、中曽根内閣総理大臣挨拶などの後、満場一致で笹川会長を初代世界義勇消防連盟会長として選出した。なお会議には米国レーガン大統領より心温まる祝辞が寄せられた。



昭和58年

1月30日
競艇の啓蒙普及キャンペーンを全国6地区で実施
～若年層5,000人を対象～



ファン拡大推進委員会では、ファン拡大策の一環として、若者に人気のあるラジオ番組「ばんばん・優子のグッドセンス・ナンセンス」の公開録音会を実施。若年層観客を対象とした競走の啓蒙普及キャンペーンを、1月30日(日)、高松市を皮切りに全国6地区で展開した。モーターボート競走をまったく知らぬ若者たちに、その概要を伝えたということは競走のイメージアップのみならず、興味や関心の高揚にも大いに効果的であったといえよう。今後とも、広く一般の人々を対象とした啓蒙普及活動を継続的に展開して、競走に対する親近感を醸成することにより、ファンの底辺拡大を図っていかなければならない。

1月30日	競艇の啓蒙普及キャンペーンを全国6地区で実施
2月24日	笹川会長、ライナス・ポーリング人道主義章受章
3月5日	住之江競走場にメンバールームオープン
3月25日	修了記念競走で石原加絵(岡山)初の女子チャンピオンに
5月9日～24日	笹川会長、ローマ法王に謁見、ヘレン・ケラー国際賞受賞、レーガン米大統領と会見
5月10日	競艇のシンボルマーク決定
6月8日	救助艇要員講習会12年ぶりに復活
7月23日	公営競技初の薄暮レース、下関競走場で実施
8月12日	オール女子レース（レディスカップ）23年ぶりに復活
9月26日	情報誌「競艇 NOW」を発刊
9月30日	業界初「第1回全国競艇関係広告代理店会議」開催
10月22日	管理中における選手の前夜祭等催事への出演を容認
10月26日	選手、審判員および検査員養成訓練規程の一部改正

競艇のシンボルマーク決定

なお、キャンペーンの主な内容は次のとおりであった。

①ＰＲ映画の上映
②競走のパネル写真展示
③モーターボートの展示
④記念写真のプレゼント
⑤競走のガイドブックの配布
⑥選手募集パンフレットの配布
⑦競走のシンボルマーク応募要項の配布
⑧その他

2月24日 笹川会長 ライナス・ポーリング人道主義章受章

2月20日～28日の日程で米国を訪れていた笹川会長は、2月24日サンフランシスコ市内のスタンフォードコートホテルにおいて、ライナス・ポーリング人道主義章を受章した。

この章は、ビタミンCの研究や平和運動で知られるノーベル賞学者・ポーリング博士の名を冠して、世界的規模で人道主義に貢献した人に贈られる。今回の受章は、笹川会長の天然痘根絶やハンセン病対策などに尽くした業績に対し、「世界保健の騎士、世界平和の戦士としての笹川会長の、人類に対する輝かしい功績と世界における苦難の減少、および生活の質の改善にあたっての成功」を讃え、感謝の意をもって贈られたものである。

3月5日 住之江競走場にメンバールームオープン

住之江競走場では昨年5月より、総工費17億5千万円を費やして、1マーク側に南スタンド増設工事を進めていたが、2月23日に工事は完了した。

同スタンドは、2・3階が一般スタンドで最上階の4階には全国公営競技場でも初めてという特別会員制の超豪華「メンバールーム」が設けられており、3月5日の競走より使用を開始した。(一般スタンドは完工と同時に使用開始)

特別会員制の観覧席はすでに平和島競走場で実施され好評を得ているが、住之江「メンバールーム」は、施設所有者の住之江興業が創立30周年を迎えた節目として設立したもので、「ゴージャスな気分で白熱のレース観戦を」という競走のイメージアップ、さらには新規ファンの拡大を目的に誕生したもの。施設の内容、雰囲気は、一流ホテルのロビー等を参考に造られている。

ルーム全フロアーに高級じゅうたんが敷きつめられ、水面側にはゆったりとした48の椅子席が設けられており、その背後に広々としたロビーが広がっている。また、和服姿の女性による抹茶サービスなどもあって、業界の新しい名所として期待が寄せられた。

5月24日／政府、行革大綱を決定。71特殊法人の整理と141件の許可整理などを当面の課題に。
1月26日／ロッキード裁判丸紅ルートで、元首相田中角栄に受託収賄・外為法違反で懲役5年の求刑。
1月17日／中曽根首相訪米、1月18日レーガン大統領に「日米は運命共同体」と表明。
1月11日／中曽根首相、韓国を訪問。全斗換大統領と会談、総額40億ドルの経済協力と教科書問題に決着をつけ「日韓新時代」に入ったと声明。

オール女子レース(レディスカップ)23年ぶり復活

3度目（第49期、第51期に次いで）で、勝負は3周2マークで石原が差し切り、そのままゴールした。彼女は“競艇界の薬師丸ひろ子”と呼ばれ、実力を伴ったアイドル選手としてファンに爽やかな笑顔を見せていたが、平成2年4月、児島競走場でのレースを最後に引退した。

3月25日 修了記念競走で石原加絵（岡山）が初の女子チャンピオンに

昭和48年9月に初の第36期修了記念競走を実施して以来の、第17代本栖チャンピオンを決定する「第52期選手養成訓練修了記念競走」が、3月25日開催された。本栖研修所水面において報道関係者、父兄、来賓245名の見守る中スタート！

そして遂に、岡山県出身の石原加絵が史上初の女子チャンピオンに輝いた。

修了記念競走優勝戦に女子が進出するのは

10月28日／第37回総選挙、自民敗北で同党内紛糾。
10月12日／東京地裁、ロッキード裁判の田中角栄被告に懲役4年・追徴金5億円の実刑判決。
3月23日／中国自動車道全線開通、着工以来17年ぶり（吹田～下関間542・7㎞）。
2月13日／瀬古利彦、東京マラソンで2時間8分38秒の国内最高記録で優勝。

10月9日／ビルマのラングーンで爆弾テロ（韓国閣僚四人を含む一六人死亡）。
9月1日／大韓航空機、サハリン沖で領空侵犯、ソ連軍機に撃墜される（乗客、乗員二六九人）。
8月21日／フィリピン有力野党議員アキノ氏暗殺。これを契機に反マルコス運動広がる。

5月9日～24日
笹川会長、ローマ法王に謁見、ヘレン・ケラー国際賞受賞、レーガン米大統領と会見

笹川会長は、5月9日、ローマ法王ヨハネ・パウロ二世と謁見のためバチカン法王庁を訪れた。笹川会長が推進している「世界軍備全廃運動」や「国連平和賞」の受賞対象となった天然痘撲滅運動、ハンセン病対策に関する貢献に、ローマ法王が深い共鳴を寄せられ招待されたものである。

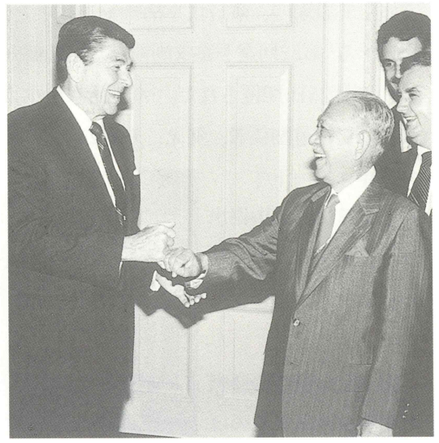
法王庁の科学アカデミー院長カルロス・チャガス教授の案内で、笹川会長と笹川副会長は同庁特別謁見室で約30分間歓談した。

笹川会長が「世界の平和は、戦争がなくなることよりむしろ貧富の差、病気などの不幸の要因をなくすことで、これが実現してこそ真の平和が訪れる」と述べると、法王はうなづいて、「互いに世界平和の実現のため、共に手をとろう」と語り、笹川会長と固い抱擁を交わした。「その瞬間、子供のころ父に抱きしめられた時のような感激を覚えた。長い人生の中で初めての体験であり、法王の心の中に慈悲の花が咲いている気がした」と、後に笹川会長は語っている。

続く5月19日、笹川会長は、その長年にわたる世界各国の盲人の教育や福祉事業、盲人対策への努力に対し、ニューヨークに在る世界の盲人福祉運動の中心的団体ヘレン・ケラー国際財団より「ヘレン・ケラー国際賞」をジャンセン・ノイエス会長から贈られた。

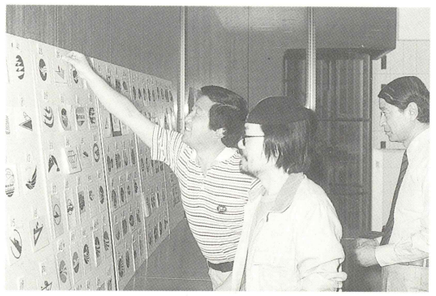
同財団は、三重苦を克服したヘレン・ケラー女史を記念して1915年に創設され、同賞は盲人の救済活動に尽力した個人や組織に贈られるもので、笹川会長の「世界の慈善事業に尽くした無私の貢献」が評価されて、今回の“アジアで初めて”11番目の受賞となった。

さらに5月下旬、米国を歴訪中の笹川会長へ突然、レーガン大統領が会見したいので来訪して欲しい旨、連絡が入る。5月24日、急きょワシントン入りした笹川会長は、外国の民間人としてはただ一人、ホワイトハウスの特別室でレーガン大統領と会見。ホワイトハウス挙げての大歓迎の中、会見は終始穏やかに進み、大統領は笹川会長の“フレンドシップ・フォース”や“米日財団設立”“ドレーパー世界人口基金”等に関する貢献を高く評価した。最後に互いの健康を約束、指切りをして、会見は終了した。



5月10日
競艇のシンボルマーク決定

ファン拡大推進委員会では、競走の啓蒙普及活動の一環として広く一般の関心を惹きつけ、競走に対する親近感の醸成とファン拡大を図るため、1月25日～4月15日の間、“誰にも親しまれる競走のシンボルマーク”の募集キャンペーンを実施した。



キャンペーンは全国に大きな反響を呼び、北は北海道、南は沖縄まで、全国都道府県から20,436点にのぼる多数の応募作品が寄せられた。作品はひとつ一つ厳正に審査され、その結果、大阪府の岩田重一郎氏の作品が競走のシンボルマークとして決定した。

シンボルマークの制定は、企業イメージ総合戦略（CI）に基づく施策で、モーターボート競走を誰にも親しまれる「健全な」「明るい」「スポーツ性あふれる」「エキサイティングな」レジャーとして、大衆にアピールし、モーターボート競走の新しいイメージを形成する目的がある。

競走の統一シンボルマーク制定に伴い、業界は、今後のファン拡大、売上向上対策の一環として、競艇ファンをはじめ一般の人々に対するイメージアップや親近感の醸成を図るため、競走の広報PR、ファンサービスのキャラクター商品、催し物の分野で、このマークを有効に活用していくこととなる。

6月8日
救助艇要員講習会12年ぶりに復活

連合会では児島、浜名湖競走場、ならびに選手会の協力を得て、12年ぶりに救助艇要員講習会を実施した。3回に分けての今回の講習会は、競走の熾烈化に伴い人身事故、それも重傷事故が多発する傾向にあるため、より迅速にかつ適切な救助活動が要求されていることから、“救助艇要員の職務の重要性を再認識し、救助体制の充実を図る”ことを目的としたもので、各地競走場の競技委員長および救助艇要員107名が参加して行われた。

・第1回…昭和58年6月8日～9日……児島
・第2回…　〃　6月15日～16日……児島
・第3回…　〃　6月22日～23日…浜名湖

10月14日／東北大で日本初の「試験管ベビー」出生。
6月13日／愛知県警、戸塚ヨットスクール校長戸塚宏を傷害致死容疑で逮捕。
5月26日／日本海中部地震（震源秋田沖、M7・7）男鹿半島に遠足中の児童や能代港護岸工事中の作業員ら、大津波にさらわれるなどで一〇四人死亡。
2月13日／青木功、ゴルフのハワイアンオープンで奇跡的な逆転優勝。

★浦安市に東京ディズニーランド開園。
★大阪築城400年まつり開幕、大阪城国際文化スポーツホール開場。
★劇団四季「キャッツ」の無期限上演を開始。
★女性雑誌の創刊が相次ぎ、250誌の史上最高を記録★パソコンとワープロが急速に普及★「下町の玉三郎」梅沢富美男が大人気。

7月23日
公営競技初の薄暮レース、下関競走場で実施

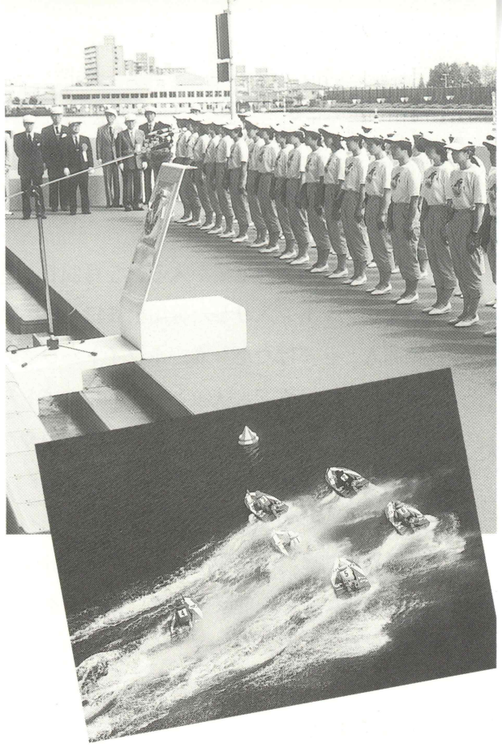
薄暮レースは、下関競走場が毎年定例的に行うファンモニター会議でファンから提案のあった「ナイターでレースを。あるいは夏季の長い日照時間を活用してレース開催を遅くしてはどうか」との要望に応えるとともに、ファン拡大ならびに、ファンサービス感謝行事の一環として各種イベントと併せ企画したものである。

実施にあたっては、施行者の局内検討会を開き、「“ナイター”は無理だが、薄暮レースの実施であれば可能である」として、全職員から問題点の提起をさせ、実施に向けた対応策の検討に取り組んだ。

その後、日照時間を基に薄暮レース開催時期の検討、運輸省・海運局へ許可申請、地元警察・消防署への協力要請、周辺住民対策、従事員との折衝、場内外への広報・PR、交通対策、競技運営、イベント等多くの解決しなければならない問題について、競走場関係者のトップから従事員、売店、情報協会にいたるまでのすべての関係者が、“開催”に向け積極的に動いたのであった。

その結果、公営競技界初の薄暮レースはついに、7月23日～26日の4日間にわたり開催された。そして、通常レースに比べ売上で40%、入場人員で20%の伸びを示すなど大成功を収めたのである。

施行者の積極姿勢で成し得たこの薄暮レースは、まさに時代の変化、ファンのニーズに対応した施策といえ、業界関係者はもとより公営競技界全体からも大いに注目された。



8月12日
オール女子レース（レディスカップ）23年ぶりに復活

オール女子レースは、競艇草創期の昭和29年3月に福岡県、芦屋競走場で開催されたのが初で、モーターボート競走に馴染みのない当時にあっては、女子選手の華やかさは宣伝効果の上からも十分に魅力的であったと思われる。

当時、女子選手は全51名であったが、昭和32年ごろまで女子レースはたいへんな人気を博し、各競走場で年1回と制限するほどの加熱ぶりであった。

しかし、結婚などによる女子選手の減少が目立ちはじめ、ついには昭和35年、浜名湖で開催の「ひな祭り女王決定戦」（女子39名参加）を最後に、短い寿命を燃焼し尽くした。

ところが昭和55年、田中弓子がデビューしていきなり脚光を浴び、それまで頑張っていた4名の女子選手と共に再び注目されはじめ、女子レース復活のきざしをみせるのである。

この間連合会では、48期以降、女子選手の大量養成を開始。昭和58年にオール女子レースを実施すべく力を注いでいたが、52期女子選手のデビューによりようやく女子選手が52名となり、オール女子レースの復活をみるのである。

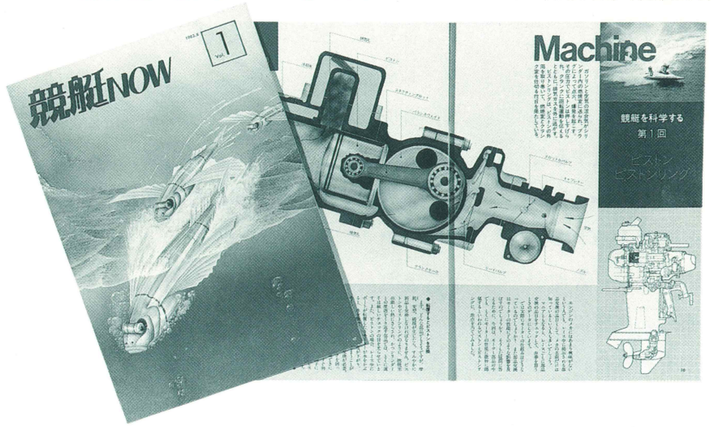
23年ぶりに開催されたオール女子レースはレディスカップと称され、8月12日から17日までの6日間にわたり、住之江競走場で開催された。

売上は6日間で55億1,500万円を記録し、普通開催と遜色のない出来であったが、話題提供という面ではたいへんな効果を上げた。また、公営競技初のミニFM局もこの時開局され、ファンの人気を集めたのであった。

9月26日
情報誌「競艇ＮＯＷ」を発刊

モーターボートのメカニックや選手に関する最新データなど、舟券対策に欠かせない情報を満載した情報誌「競艇NOW」が、9月26日発刊された。モーターボート関係4団体（全国モーターボート競走会連合会、全国モーターボート競走施行者協議会、全国競艇施設所有者協議会、日本モーターボート選手会）からなる、競艇NOW編集委員会によるものである。

その目的は、各地のファンクラブの円満な運営を支援することにあり、ファン拡大推進委員会の全国的ファンサービス企画の一環として、モーターボート競走に関する諸情報を掲載し、年4回（季刊）発行される。表紙に魚が泳ぐさまをメカニックに戯画化したイラスト（シリーズで）を載せたこの情報誌は、ファンクラブの中央誌と言え、その後各競走場がそれぞれ独自の情報誌を発行するきっかけともなった。



9月30日
業界初「第1回全国競艇関係広告代理店会議」開催

業界初の全国競艇関係広告代理店会議が9月30日、東京海洋会館において開催された。出席は、全国の競走場に出入りしている広告代理店の担当者117名。

この会議は、競走創設以来初めての試みで常日頃、競艇の広告を担当していただいている全国の広告代

★流行語／いいとも（タモリの笑っていいとも）★ニャンニャンする★おしん
★テレビ／おしん★積木くずし（親と子の200日戦争）
★流行歌／「さざんかの宿」大川栄策★「釜山港へ帰れ」チョーヨンピル★「めだかの兄弟」わらべ★「矢切りの渡し」細川たかし

★CM／人間だったらよかったんだけどね（日刊アルバイトニュース）★タコ。タコがいうのよ…（サントリー）
★映画／楢山節考★戦場のメリークリスマス（日・米・ニュージーランド）★フラッシュダンス（米）
★書物／「探偵物語」赤川次郎★「二つの祖国」山崎豊子★「迷走地図」松本清張

理店担当者に、モーターボート業界の基本理念なり、今後進もうとしている方向なりを理解していただくと同時に、広告等PRの専門家の意見を聞いて業界内に刺激を与え、CI等の基本的コンセプトについては改めて検討を行い、より効果的な宣伝を展開するために開催されたものである。

（以後、この会議は定例的に行われることとなる。）

10月22日
管理中における選手の前夜祭等催事への出演を容認

競走のファン、あるいは一般の市民を対象としたサービス企画は、ここへ来て例年になく多く開催されるようになった。

中でもファンが最も望み、人気の高いのはやはり“有名選手と親しく接する機会”である。その意味で「前夜祭」は、ファンのニーズに応えることとなり、ファンサービスとしては最も効果的であり、競走の広報・PRにも結びつき、ひいては新規ファン拡大にも大きく期待ができる。

こうした情勢の中で6月10日、競技運営研究委員会が設置されたが、この委員会では、「ファン拡大とは単に売上向上を目指すものではなく、“ファンあっての競走”という基本理念をいかに具現化するか、が指標。競技運営等についても、従来の考え方に固執することなく、時代の変化に対応した施策へと転換を図っていくべきである」との考えの下に10月22日、各地より強く要望のあった「管理中における選手の前夜祭等催事への出席について」は、これを可とする答申を行った。

10月26日
選手、審判員および検査員養成訓練規程の一部改正

9月19日開催の連合会第104回理事会において、「選手、審判員および検査員養成訓練規程」の一部改正が議決された。次いで10月26日付舶監第610号で運輸大臣に認可され、昭和59年4月1日より施行されることとなった。

この規程の改正理由は、「モーターボート選手は統計上からも、年齢が若くて選手になった者が好成績を上げていることから、受験年齢を引き下げることにより優秀な選手の育成を、また選手全般の若返りにより新陳代謝を促し、常にファンにアピールするレースを提供できる」などであった。

●改正点

1．選手の受験資格＝「17歳未満23歳以上の者は、受験資格を有しない」
2．審判員、検査員の受験資格年齢の下限＝「17歳未満」
3．養成期間
①選手になろうという者＝1年
②審判員または検査員になろうとする者＝9月
③審判員および検査員になろうとする者＝1年
4．雑費は養成員の負担

2月29日
番組編成業務に関する答申

全国モーターボート競走施行者協議会では昭和56年8月にまとめられた「モーターボート競走運営懇談会意見書」に基づき、58年8月に「番組編成業務および整備士制度調査研究特別委員会」を設置。番組編成業務の競走会委託について慎重に審議、検討を進めてきた。その結果、施行者の行う番組編成に当たって、現行の法規内で競走会の協力の度合をさらに高めることにより、出走表の基礎となる選手の組合せ業務を競走会が行い、これを施行者が十分な管理のもとに決定処理するのが適当であるとの答申書をとりまとめた。

連合会ではこれを受けて、2月29日の定例常任役員会にはかり、受け入れを決定した。なお、組合せ業務の競走会への移行は昭和60年4月までに完了することとした。

3月31日
1日の競走回数の取り扱いについて

モーターボート業界は、昭和48年秋のオイルショックに起因する政府の省エネルギー対策へ積極的に協力するため、業界の自主的暫定措置として、昭和49年1月の開催から全国一斉に、1日の競走回数“12回”を“10回”に自粛した。

しかしながら、昭和55年度をピークに売上・入場人員とも大幅な減少が見られる中、業界は、ファンのニーズに少しでも応えるべく特別発売、早朝外向前売、前日発売等の施策を積極的に推進してきた。その一貫した流れの中で、ファン拡大推進委員会では「1日12レース制の復活」が提起されるところとな

昭和59年

2月29日	番組編成業務に関する答申
3月31日	1日の競走回数の取り扱いについて
4月1日	女子選手専任教官を配置
4月14日	ナイターレースの実験を浜名湖競走場で実施
4月17日	あっせん辞退期間を30日に短縮、11月1日より実施
5月4日	「第11回笹川賞競走」今村豊史上最年少（22歳）制覇
5月8日	国連、笹川健康賞創設へ
6月13日	スタート練習の写真の公表を可とする
9月25日	番組編成業務研究会報告書提出
9月27日	モーターボート大賞競走新設
12月13日	業界初「全日本オールランナ選手権」芦屋競走場で開催

ナイターレースの実験を浜名湖競走場で実施

9月6日／韓国大統領全斗換来日。宮中晩餐会で天皇、「両国の間に不幸な過去が存したことは誠に遺憾」と声明。
8月10日／国鉄再建管理委、第2次緊急提言で始めて分割・民営の方向を明示。
8月6日／自民党安全保障調査会の法令整備小委員会で「国家秘密に係わるスパイ行為等の防止に関する立法案」（スパイ防止法案第3次案）を作成発表。
5月15日／自民党安全保障調査会、防衛費のGNP比1％枠の見直し作業に着手。

り以後、数回にわたって検討がなされてきた。

その結果、昭和58年11月26日の第７回委員会において、「１日当たり10レースの枠をはずし、12レース以内の競走が実施できるようにする」方針が決定された。

委員会事務局はこの決定に基づき、運輸省当局に「業界としての自主規制を設定し、１日10レース制の自粛を解除する」ことを説明、３月27日に了承を得た。

この“１日の競走回数”の取り扱いについては、３月31日付で全施協会長名にて連合会会長宛に報告がなされ、昭和59年度の競走から取り扱うこととなった。

以下は、これを実施するための自主規制条件である。

1．「選手出場あっせん規程」に定める特別競走、施設改善記念競走ならびに特別競走に準ずる企画の競走
2．一節間全員女子選手で開催する競走および薄暮競走
3．他場において４大特別競走の特別発売を実施する日
4．年末年始、盆ならびに日曜、祝祭日に開催する日
5．選抜戦（ファン投票および記者投票）、優勝戦出場決定戦および優勝戦の開催日
6．新型ボートを使用する日

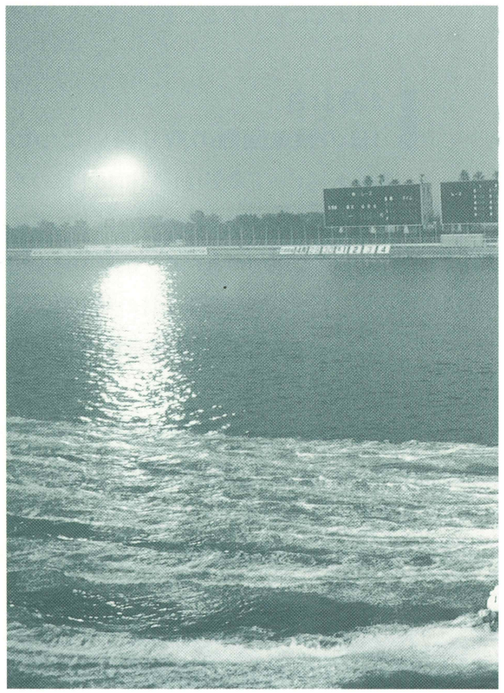
４月１日
女子選手専任教官を配置

連合会では、近い将来100名に達する女子選手に対し、技量向上のための訓練はもちろん、日常の心構え等すべての面にわたっての指導、教育を行うこととした。主たる目的はレベルアップで、優秀な選手が１名でも２名でも育つようにと、女子選手専任教官２名を業務部業務課に配置した。

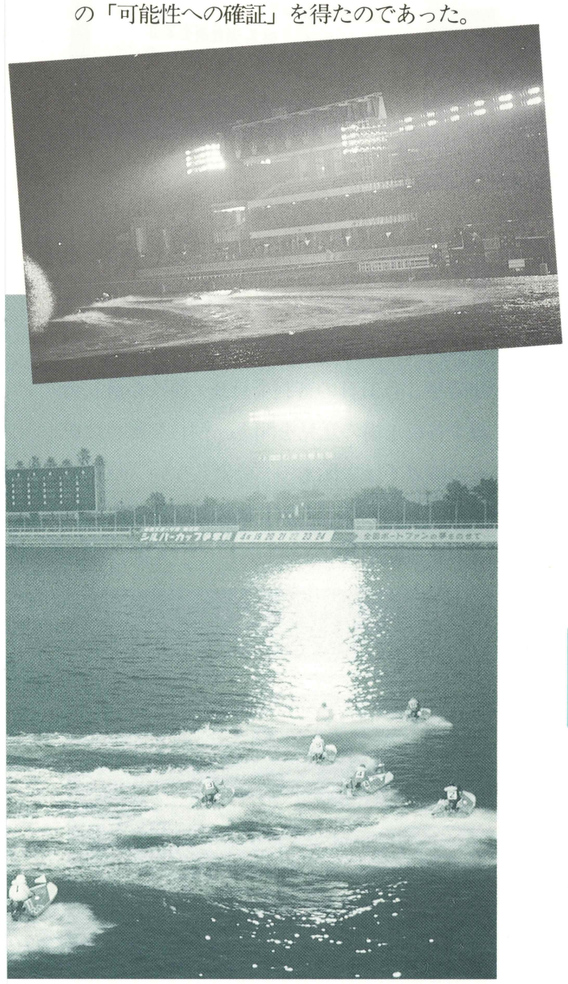
４月14日
ナイターレースの実験を浜名湖競走場で実施

現在、公営競技の新たな発展を期するためには、レジャーの多様化やライフスタイルの変化など、いわゆる社会構造の変化に対応していくことが求められている。

モーターボート競走では、ファンの要望を踏まえ、かつその利便に沿うための施策を実施してきているが、今後さらに発展していくためには、近い将来において、国民の余暇行動時間に合わせた「夜間での競走」を行うことも必要と考えられた。このため、連合会ではファン拡大推進委員会の意向を受け、競走の将来対策の一環として、ナイターレースの実験を実施。浜名湖競走場、㈱鎌田建築設計、三菱電気㈱、三井建設㈱、その他の協力を得て、４月14日から16日までの３日間にわたってこれを行った。



実験の目的は、将来ナイターレースを行う場合の照度、競技運営等に関する諸データを収集するというもので、結果は、“一応競技運営面では支障なし”の声が大勢を占め、今後の「可能性への確証」を得たのであった。



４月17日
あっせん辞退期間を30日に短縮、11月１日より実施

競技運営研究委員会では、競走の魅力づくりを目的に、現行の競技運営および選手関係諸問題を積極的に改善していくため、次の項目について慎重に検討を重ね、その結果、意見をとりまとめ答申を行った。

1．スタート事故によるあっせん辞退制度については　→現行の40日のあっせん辞退を、30日に短縮することが適当である。
2．４大特別競走の開催要綱について　→現行どおりとするのが適当である。
3．ボート・モーターの改良および装着、整備範囲の拡大について　→①ボートの改良について＝今後ともボート・モーターの改良を促進すべきである。②モーターの取付け（装着）について＝魅力あるレースを提供するという見地から、現行のモーター装着制限を緩和し、選手の研究意欲の助長、技量向上を図っていくことが適当である。③プロペラの選手持ち制について＝予想される問題点を関係者間でよく協議、解決した上で実施することが適当である。

５月４日
「第11回笹川賞競走」今村豊が史上最年少（22歳）制覇

昭和59年度４大特別競走のトップを飾る第11回笹川賞競走は、４月29日から５月４日までの６日間にわたり浜名湖競走場において開催された。栄光の笹川杯を掌中にしたのは、デビュー３年目の今村豊。若干22歳にして、４大特別競走の初優勝を飾る～という快挙で

9月12日／グリコ事件犯人「かい人21面相」、森永製菓も脅迫。
8月24日／警視庁生活課、中江滋樹主宰の投資コンサルタント業「投資ジャーナル」グループを摘発。
3月18日／江崎グリコ社長、西宮市の自宅から短銃を持った二人組に誘拐される。5月10日グリコ製品に毒物との脅迫状が報道機関に郵送される。
1月☆☆／「週間文春」の記事「疑惑の銃弾」から三浦和義の口ス疑惑騒動始まる。

7月28日／第23回ロスアンゼルスオリンピック開催。
5月8日／ソ連、ロスアンゼルス五輪不参加発表。東欧諸国同調。
3月★★／アフリカで飢餓深刻化。世界各国で救援活動起こる。
2月★★／12日植村直己、世界初のマッキンリー冬期単独登頂に成功するも、下山途中で消息を絶つ★9日ソ連アンドロポフ書記長死去、後任にチェルネンコ。

あった。

過去、天才勝負師と騒がれた北原友次選手も、昭和39年のダービーで初タイトルを手にしたのは、選手生活５年目の24歳。モンスターと呼ばれた野中和夫選手ですら、初タイトルは選手生活５年目を過ぎていた。今回の、今村選手の優勝がいかに素晴らしく偉大なものであったか、改めて痛感される。

5月8日
国連、笹川健康賞創設へ

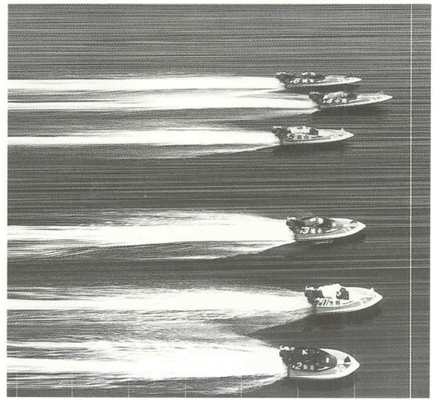
WHO(世界保健機関)では、総会開催中の５月８日、モーターボート競走の収益金の拠出100万ドルに基づく、「笹川健康賞」の発足を承認した。

この賞は、WHOが推進している「西暦２千年保健戦略」の一環として設けられたもので、世界各国で保健衛生分野に功績のあった個人または団体に、毎年１件賞金10万ドルが贈られるというものである。

その創設には、WHOのマーラー事務局長が、昭和58年11月、国際医療シンポジウムに特別講師として来日した際、天然痘撲滅、ハンセン病追放、難民救済などで世界に貢献している笹川会長の、その思想と行動を高く評価。WHO健康賞に「ササカワ」の名称をつけたいと提案し、実現したといういきさつがあった。

6月13日
スタート練習の写真の公表を可とする

スタート練習の写真の公表については、昭和57年３月31日の審判委員長・競技委員長会議で各競走場の意見を聞き、検討を重ねたがその時点では、従来の「公表しない（昭和52年申し合わせ)」との取り決めを再認識するにとどまった。



★ひとり暮らし老人、一〇〇万人突破★15年ぶりに1万円・5千円・千円の新札発行★人気力士の高見山、5月場所を最後に引退★女性・中高年層を中心に麻薬の汚染広がる。★流行語／マル金、まるビ★普通のおばさんになります（突然引退した都はるみの言葉）★歌／「十戒」中森明菜★「ワインレッドの心」安全地帯★「長良川艶歌」五木ひろし★テレビ／核戦争後の地球★宮本武蔵★CM／どんとぼっちい（大日本除虫菊）★エリマキトカゲ（三菱自動車）★映　画／お葬式★Wの悲劇★愛と追憶の日々（米）★書物／「構造と力」浅田彰★「愛情物語」赤川次郎

しかしその後、ファンサービスの一環として“写真の公表”をすべきではないかとの意見も聞かれ、昭和59年６月13日に開催された同会議において再度検討。スタート練習の写真の公表を可とする結論に達した。

これにより、まずスタート練習のVTR放映が住之江競走場で始まり、ファンに好評であったことから次第に各地で“タイミング”を発表（放送、放映）することとなった。

（平成２年現在では、VTRもほとんどの競走場で放映されている。）

9月25日
番組編成業務研究会報告書提出

番組編成業務は、一部の競走場を除き、従来から各場とも工夫を凝らし、かなり高度な作業を行ってきた。しかしいずれも、特定のベテランによる“人手”に頼らざるを得ないものであり、その理由は「施設等の改善」が最優先されていたためと思われる。ところが中央情報処理システムの運用が軌道に乗るにつれ、コンピュータ利用の有効性も各方面で認識され、加えて、同業務のうち「選手の組合せ業務」を競走会に移行するという状況変化もあって、連合会はこれに対処すべく「番組編成業務研究会」を設置。業務支援のためのシステムのモデル作りに着手した。

その報告書は、支援システムの基本構想と番組編成業務の実態調査の結果・分析について、以下の構成で記述している。

1．概要
2．現状調査分析
3．番組編成支援モデルシステムの基本構想
4．将来の環境変化への対応

9月27日
モーターボート大賞競走新設

昭和59年度の売上動向をみると、危機的状況が強い競走場と小康を保っている競走場とに大別され、低迷下における二極化現象がはっきりと現れている。そこで、７月20日開催のファン拡大推進委員会では、低迷著しい競走場には何らかの速効的施策が必要との見地から、特別競走に準ずる競走＝「モーターボート大賞競走」を設定することで意見の一致をみた。これを受けた連合会は、選手出場あっせん委員会においてあっせん基本方針の一部改正を行い、９月27日の連合会常任役員会で審議を重ねてその新設を承認可決した。(同競走は昭和60年度以降３年間にわたり年４回、売上下位12場で開催されることになる。)

12月13日　業界初
「全日本オールランナ選手権」
芦屋競走場で開催

全レースがランナ戦という業界始まって以来のタイトル戦「全日本オールランナ選手権」が、12月13日から６日間にわたり、芦屋競走場で華やかに開催された。

ランナ戦は、九州地区では従来より好評であり、ファンクラブのモニター会議でも「ぜひ…」との声が高く、今回の実施となった。

“艇をしゃくりながら走るような姿がたまらない”“ハイドロではなかなか勝てない体重の重い選手でも力を発揮でき、面白いレース展開が見られる”と、その魅力を讃えるファンは多く、スポーツ紙等も多彩に取り上げた。また売上・入場の成績も通常開催に比べて大幅増となり、人気の高さをうかがわせた。

昭和60年

1月16日　場外舟券売場の基本的考え方に関する答申
2月5日　第1回場外促進最高責任者会議
3月7日　特別発売の対象に順位決定戦が加わる
3月13日　進入時30秒以前のエンスト即回り直しルール改正合意
4月19日　進入固定レース平和島競走場でスタート
5月2日　公営競技場から暴力団、ノミヤ等を追放する緊急大会を開催
5月26日　業界初の電話投票順調にスタート
8月1日　モーターボート記念競走公営競技界初のサマータイムレースで実施
9月14日　場外発売場の設置可能に
9月25日　新鋭王座決定戦競走新設
12月3日　第1回場外発売運営委員会

場外発売場の設置可能に

1月16日
場外舟券売場の基本的考え方に関する答申

ファン拡大推進委員会から、「場外舟券売場の基本的考え方」について諮問されていた場外発売システム研究委員会は、昭和59年12月10日より4回にわたって委員会を開催し、慎重に研究を重ねてきた。

その結果、昭和60年1月16日、ファン拡大推進委員会委員長宛に次のような答申を行った。

●場外舟券売場についての基本的考え方

1．中規模場外舟券売場
投資効率やファンの動員などを勘案して、最も適当であると考える。

2．小規模場外舟券売場
売上向上をねらう場合は、地理的条件などに合わせ数ヶ所の設置が必要である。

3．大規模場外舟券売場
高額の設備投資を必要とするので、中規模場外などの状況を考慮し、将来の高度情報社会の進展に合わせ検討することが肝要である。

4．場間場外舟券売場
設備投資や周辺対策などが容易にできる利点も大きいので、4大特別競走の特別発売制度をさらに充実させた非開催日の活用など、積極的に採用していくべきである。

5．移動型場外舟券売場

6．具体的推進について
移動してファンサービスを行う特殊な類型であるから、大規模場外と同様に将来の高度情報社会の進展に合わせ検討することが肝要である。

2月5日
第1回場外促進最高責任者会議

業界最高指導者が集う「第1回場外促進最高責任者会議」が2月5日、笹川記念会館において開催された。会議では場外舟券売場の基本的考え方、今後の進め方について検討され、次の事項が決定された。

1．法制上の整備を運輸省と関係当局に強く要望する。
2．場外売場実施推進本部を中央に設置する。
3．各競走場ごとに、場外舟券売場の基本構想を立案する。
4．各競走場ごとに、場外に関する連絡機関を設置し、中央の連絡本部と連絡をとりつつことを進める。

3月7日　特別発売の対象に順位決定戦が加わる

従来、特別発売の実施は、準優勝戦・優勝戦の4レースだけがその対象となっていたが優勝戦日に実施される順位決定戦についても対象にして欲しいとのファンの要望が強く、昭和60年1月28日付で関連4団体連名の上運輸省へ、「特別発売の発売レース数の増加について」の要望書を提出。これが妥当なものと認められ、昭和60年3月7日付で次のとおり通達がなされた。

海総第108号
昭和60年3月7日

関係各地方運輸局
神戸海運管理部長　殿

海上技術安全局長

●勝舟投票券の特別発売の運用について

勝舟投票券の特別発売については、昭和57年4月28日付舶監第279号「モーターボート競走法施行規則の一部を改正する省令の運用について」により、通達しているところであるが、このたび特別発売の発売対象レースの増加について別添のとおり要望があり、妥当なものと認められるので、前記通達の一部を下記のとおり改正し、昭和60年4月1日以降に実施される特別発売から適用することとしたので、よろしく取り計らわれたい。

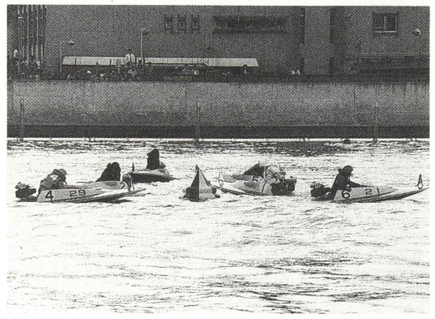
記

記1．本文中「準優勝戦および優勝戦」を、「準優勝戦、順位決定戦および優勝戦」に改める。

3月13日
進入時30秒以前のエンスト即回り直しルール改正合意

昭和60年3月13日、審判委員長・競技委員長会議において「進入時30秒以前のエンスト即回り直しルール」改正の合意がなされた。

このルールについては、進入時選手の乗ったボートがエンストすることにより、ファンの推理した進入コースが、偶然の事象により大幅に変わってしまうことから改正を望む声



●政治経済

10月11日／政府、国鉄の6分割・民営化を骨子とする「国鉄改革のための基本方針」を決定。
8月13日／三光汽船、5000億円の負債で戦後最大の倒産。
6月6日／自民党、国家秘密法（スパイ防止法）案を議員立法として衆院に提出。12月21日廃案。
4月9日／政治・経済摩擦等の対策の包括的な対外政策を決定。

8月12日／羽田初大阪行の日航ボーイング747ジャンボ機が群馬県御巣鷹山山中に墜落。五二〇人死亡、四人が奇跡的に生存。
6月18日／「純金ファミリー」契約で老人・主婦から2、000億円を集めた豊田商事の永野一男会長、自宅で刺殺される。
3月16日／国際科学技術博覧会（科学万博）開幕（～9月16日入場者二、〇〇〇万人余）。
1月26日／山口組組長竹中正久ら三人、一和会系組員に射殺される。以後抗争激化。

が多く、検討を重ねてきた。その結果、現行進入規制（内規）を強化しないことを条件にこのたびの合意となった。

その後、4月24日開催の同委員長会議において検討され、ファンへの周知等を考慮して次のような結論に達した。

エンスト回復後の進入方法は、30秒以前の場合であっても、前方に進入する艇間隔があれば、同一コースを進入するものとする。ただし、前方を遮断され、進入する艇間隔がないときは右に転舵し、可能な限りイン寄りに近いコースから、または回り直して艇間隔のあるコースから進入するものとする。

このルールは、昭和60年6月1日以降を初日として開催する競走から実施する。

（この“ルール改正”も、「ファンサイドに立った競技運営」を目指すものにほかならなかった。）

4月19日
進入固定レース
平和島競走場でスタート

モーターボート競走は30年の永きにわたって、“レース場へ来て、スタート練習を見て展示航走を見、部品交換を参考として”舟券を購入するという方法をとってきた。

その中で、最も面白いレース形態として現行の競技方法が確立されたのであるが、過去のような試みを知らないお客様にとっては、比較する対象がないので、現行制度がいかに面白い形態であるのか理解できず、単一形態では選択の幅がないことにも不満があった。さらに一方では、新規ファンや他公営競技に馴染んでいる人をファンとして獲得するための「レースの多様化」、そして何よりも「わかりやすい」競艇にする必要があった。

このため、ボートを見ずに舟券を買っていただくことや、他公営競技とレース形態を同じようにすることで、新しいファンが入りやすいように…。さらには現行のスタート方法と比較して現行方法の面白さを理解していただくため、勝敗に影響大とされる進入コースを、確定情報として提供する「固定ワク」なるものが考えられたのであった。

11月13日／コロンビアのネバデルルイス火山噴火。アルメロの町が消え、二五、〇〇〇人死亡。
8月10日／服部道子（一六歳）、全米女子アマチュアゴルフ選手権で、日本人初優勝。
3月10日／ソ連チェルネンコ共産党書記長死去。後任にゴルバチョフ。
★AIDSの恐怖、世界に広がる。

かくて、進入固定レースの成功を危ぶむ声も多い中、昭和59年3月、平和島競走場は東京都競走会を通じて、連合会に対し同競走実施の意向を正式に表明。その実施に関する諸規程の整備、競技方法の検討、選手会への協力要請、運輸省当局への折衝等を要請した。

これを受けた連合会は、現地の意向を汲んでまず運輸省へ趣旨を伝え、その指導もあって、直ちに競技運営研究委員会で協議。同年5月16日、実施に関する基本的考え方をまとめた。

その後数次にわたって、関係者間で協議がなされ、同年8月に進入固定レースのテストを実施した。

こうして昭和60年4月19日、平和島競走場において進入固定レースは開始された。成功を危ぶんだ大方の専門家の危惧をよそに、以来、進入固定レースは新しいレース形態のひとつとして、ファンの間に定着している。

5月2日
公営競技場から暴力団、
ノミヤ等を追放する緊急大会開催

全国の公営競技主催者で構成される全国公営競技施行者連絡協議会は、ファンが安心して楽しめる、明るい健全レジャーとしての公営競技場の実現へ向け、5月2日、東京・銀座ガスホールにおいて「公営競技場から暴力団、ノミヤ等を追放する緊急大会」を開催。全員が一致団結して、すべての公営競技場から暴力団、ノミヤ等不法行為者の完全一掃を期することを決議した。

発端となったのは、山口組対一和会の広域暴力団同士の抗争事件で、2月23日、多数の観客がいる高知競輪場内で、拳銃を使った殺傷事件が発生。ファンや周辺住民を恐怖におののかせ、国民一般にも大きな不安と衝撃を与えた。同時にそれは、日頃からノミ行為等を目的に多数の暴力団が出入りしていたことが、こうした不測の事態を招く結果となったことを物語ってもいた。

これを重くみた公営競技の監督官庁と警察庁は、公営競技関係省庁連絡会議を持ち、3月18日以降、数回にわたってその対策案を検討。全国の公営競技場から暴力団、ノミヤ等を締め出すべく、各施行者に強く指導することを決定し、各省がそれぞれの施行者に競技の関係規則を改正すると共に自主警備体制を強化するよう通達した。

かくして緊急大会が開催され、以下の決議をみた。

1．暴力団、ノミヤ等の入場拒否、退場命令に関する規定を整備して、その実施について関係団体に協力を求める。
2．都道府県やブロック単位での連携を強化して暴力団、ノミヤ等の情報を収集し、その情報の交換を促進する。
3．ファンにノミヤ等に近づかないようＰＲ面を強化していく。
4．各競技場の自衛警備体制を早急に見直して強化を図る。そして警察当局の強力な援助も要請する。

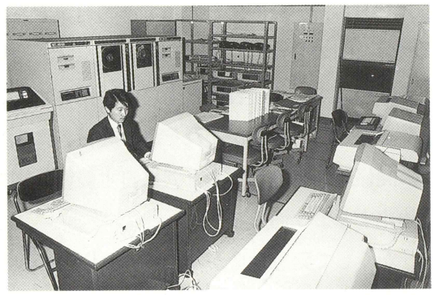
大会決議を決めた後、警察庁暴力団対策官の講演と琵琶湖競艇場と同競輪場で実施した完全入場拒否の体験発表が、滋賀県警察本部警備第二課長より行われ、閉会した。

なお、「暴力団、ノミヤ等を追放する運動」は、11月1日より、全国一斉に実施された。

★新両国国技館落成。
★プロ野球セリーグで阪神タイガース21年ぶりに優勝し、日本シリーズでも西武を下し初の日本一。
★全国小・中学校で「いじめ」横行。
★ファミコンブーム。

5月26日
業界初の電話投票順調にスタート

モーターボート競走の入場者は年々減少しているが、これらの中には転居、転勤、あるいはレジャーの多様化による時間的制約等から競走場へ行くのが困難となり、モーターボート競走を楽しむことを中断したファンも相当数含まれていると思われる。



また、時間帯によっては、多数の自家用車が競走場周辺へ集中し、とくに退場時にはかなりの範囲にわたって交通渋滞を発生させるため、競走場周辺住民やファンから「競走場へ入場しないでモーターボート競走を楽しめる方法の導入」が要望されている。

さらにはこのような交通渋滞の発生が、サマータイムレース等、ファンの要望に沿った新しい施策の導入の妨げになっている場合もある。また一方では、ノミ行為者等の違法行為が行われる恐れもある。

電話投票は、ファンおよび周辺住民の要望に応えるとともに、ノミ行為等の違法行為を防止し、さらには交通環境の改善を図るために導入されたものである。これによって、業界が戦略として提唱する「“いつでも、どこでも”手軽に舟券を購入でき競走を楽しむ」ことが、より容易になった。

業界初の電話投票は、5月26日から平和島競走場で稼動し、順調なスタートをみせた。

第一節目は会員数510名で、平均利用者は236名、平均一日売上は459万円であったが、6月の中旬には会員数も846名となり、3節目の平均利用者は、356名となった。また、3節間の合計売上は7,068万円、利用者合計3,739名と、予想を上まわる成績を収めた。

この“平和島”を皮切りに、11月19日には住之江競走場でも電話投票を開始、以降順次各競走場が導入を決定していくことになる。

8月1日
モーターボート記念競走を公営競技界初のサマータイムレースで実施

サマータイムレースおよびオール女子レース、さらに12レースの採用、前日発売、早朝外向前売発売、3Pボートの導入など、ファン拡大施策に積極的に取り組んでいる下関競走場で、第31回モーターボート記念競走が、

★流行語／金妻（TVドラマ「金曜日の妻たち」の略。不倫な恋を指す）★イッキ★やらせ
★テレビ／金曜日の妻たちへ★湾つくし
★流行歌／「ジュリアに傷心」チェッカーズ★「恋におちて」小林明子

8月1日から6日までの間、開催された。

競技実施に当たっては、施行者・競走会の意欲的な努力により、業界で初めてのサマータイムによる開催となった。

競走場の開門は10時、第1レースは12時20分、第12レース発売締切は18時30分。そのほか前日前売発売を前検日（15時30分から2時間）および開催期間中（18時45分から30分間）、早朝外向前売発売を通常より30分繰上げ、7時より全レース発売を行った。

また、特別発売は5地区の競走場、平和島、常滑、三国、丸亀、大村（平和島以外はサマータイム）で実施。準優勝戦3レース、順位決定戦2レース、優勝戦、の6レースが発売され、全国のファンのニーズに応えた。

レースは、野中和夫選手が同記念競走3度目の制覇を遂げ、自治大臣杯と優勝賞金1,500万円を獲得した。

9月14日
場外発売場の設置可能に

場外発売については、ファン拡大推進委員会の諮問機関である「場外発売システム研究委員会」で諸種検討され、「モーターボート競走における場外舟券売場の基本的考え方に関する答申」が提出された。その後、専門委員会、推進本部の設置、モデル構想の立案などを行い、運輸省との間で各種の折衝を進めてきた。

一方、運輸省当局は前向きかつ精力的に、法制上の整備のための研究、検討を行っており、7月30日には連絡本部の責任者を一堂に集めて第2回のヒアリングを行った。

このような状況下、法制上の整備が行われ法律・政令の改正ではなく省令（施行規則）の一部改正によって9月14日、場外舟券発売場を設置することが可能となったのである。

併せて、これまで競走開催の日取りは水曜日を含まないものとしていたのが、競走をより効率的に行うため、さらには当該地域の行事に合わせた開催日程を組みやすくするため競走場ごとに“別に定める特定の曜日を含まない日取り”と改められた。

なお、運輸省内に設置されている記者クラブで発表されたリリースでは、改正の理由を次のように述べている。

●改正の理由

モーターボート競走においては、近時、特別発売、サマータイムレースの実施等、ファンサービスの拡大を図ってきたところであるが、場外売場の設置については当初から、モーターボート競走法施行規則（昭和26年運輸省令第59号。以下「施行規則」という）第8条により禁止されており、これがファンサービス拡大の障害となっている。

そこで今回、同条について見直しを行った結果、モーターボート競走の経営基盤が発足当初に比べ、大幅に安定化してきたこと、ノミ行為の防止や混雑緩和が図れること、他競技における場外発売がファンに好評であり、モーターボート競走においても同様の要請があること、売上の増加により地方財政の改善に資する等の理由により、施行規則を改正して一定の規制の下に、場外発売場の設置を認めようとするものである。

9月25日
新鋭王座決定戦競走新設

9月25日の連合会定例常任役員会におい

てファン拡大推進委員会の指針でもある“新人・新鋭選手の抜本的育成対策”の一環として、また、現在各地で盛んに行われている新人・新鋭戦競走の一本化を図るものとして、「新鋭王座決定戦および新鋭リーグ戦競走」を決定、昭和61年度より実施されることとなった。

リーグ戦のサブタイトルは「'86新鋭王座決定戦シリーズ第○戦」とし、メインタイトルは、開催競走場独自のネーミングにより行うこととした。

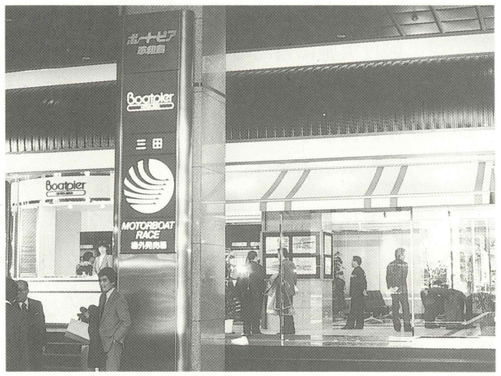
競走新設の趣旨は以下のとおりである。

1．優秀新人選手の発掘登用を図り、併せて新鋭選手の育成強化を促す。
2．力量近似の伯仲戦による、魅力あるレースをファンに提供し、一般競走の活性化を図る。
3．リーグ戦方式を採用することにより、話題を提供し、若年層ファンの拡大を図る。

12月3日
第1回場外発売運営委員会
～場外発売場のイメージを検討～

場外発売運営委員会は、場外発売を行うための新しいスタートに際し、各競走場が設置計画から施設の設計、運営等を行う上で、ファンは勿論、一般市民の方々にも受け入れられる“場外”にするにはどうすべきか～を方向づけるため設置された。

12月3日の第1回委員会では、場外発売の統一イメージと今後の進め方について審議されたが、参考意見を聞くため、茶谷正洋東工大教授、内田茂東京理科大助教授の二氏を招へいし、専門的分野から見た意見をも聴取した。その結果、場外発売場については“施設全体の統一”ではなく“名称、シンボルマーク等を統一”することが必要であるとの意見を得た。その後、ファン拡大推進委員会に諮り検討を重ねたが、全国的にこの場外発売場を発展させるためには、ファンに親しまれる斬新な統一イメージを形づくることが重要との考えから、愛称、色彩、看板、内装等の統一イメージを盛り込んだモデル場外発売場を翌61年2月3日、笹川記念会館1階に設置した。



モデル場外発売場の概要は鉄骨平屋（約40坪）で、規模は小規模5窓口、その他案内所、情報コーナー、休憩所等を設け、基調となる色彩は「白と青」とし、明るく清潔なイメージを印象づけた。また愛称も数多くの案の中から、関係者、学識経験者の意見を参考に、「ボートピア（BOATPIER）」と決定した。

ボートピアの「ピア」は桟橋、埠頭という意味であるところから、場外発売場はモーターボート競走と地域社会、住民の方々とのかけ橋となって、その地域の発展に役立つものでありたいとする関係者の思いを込めた愛称が採用されたものである。

1月18日
笹川会長「マーチン・ルーサー・キング非暴力、人道賞」受章

米国の黒人運動指導者で、暗殺されたマーチン・ルーサー・キング牧師を記念して設けられ、世界の人権擁護に貢献した人に贈られる「マーチン・ルーサー・キング賞」が、1月15日に発表され、「平和賞」に南アフリカのアパルトヘイト（人種隔離政策）反対運動の指導者デズモンド・ツツ主教が、「非暴力・人道賞」に日本船舶振興会の笹川会長が選ばれた。ちなみに、同賞に米国人以外が選ばれたのは初めて。

受賞式は1月18日、米ジョージア州アトランタ市で行われた。

笹川会長の受章は、国連はじめ諸国際機関に民間人としては最大の貢献をし、人道的立場から飢餓、貧困、病苦の克服のため尽力していることが評価されたものである。

1月18日　笹川会長「マーチン・ルーサー・キング　非暴力・人道賞」受賞
3月5日　展示タイム非公表の申し合わせを廃止
3月18日　準優勝戦日・優勝戦日全レースを場外発売に
3月24日　第21回鳳凰賞競走で通信衛星で映像サービスを実施
4月15日　ファン対策および場外発売専門委員会新設
6月6日　選手・審判員・検査員の身体検査および適性検査基準の一部改正
7月7日　競艇広告大賞新設
8月7日　賞金王決定戦競走新設「優勝賞金3,000万円」に
8月12日　ボートピア丸亀オープン
10月24日　選手主体の自主整備方式テスト
11月28日　共同通信情報提供システム本稼動
12月12日　第1回新鋭王座決定戦競走開催
12月21日　1億円レーサー誕生

7月6日／衆参両院同時選挙で自民党圧勝。
5月21日／8増7減の衆院定数是正法案衆院通過。
5月4日／東京サミット、リビア名指しのテロ反対、チェルノブイリ事故の情報要求声明採択。

ボートピア丸亀オープン

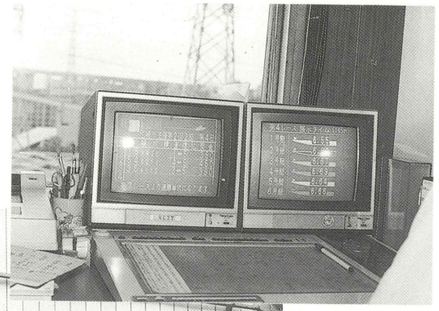
3月5日　展示タイム 非公表の申し合わせを廃止

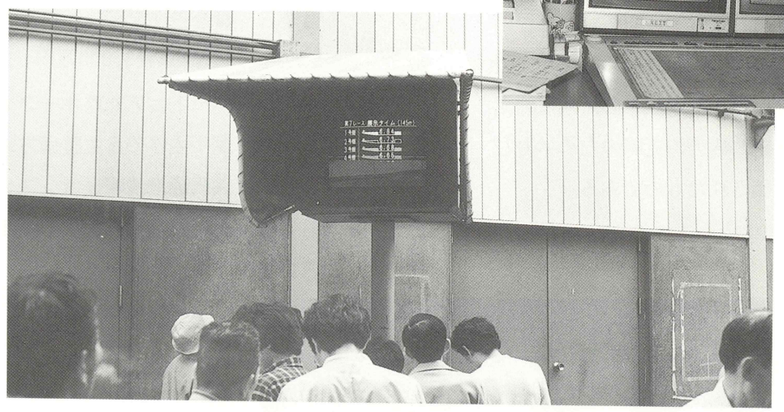
展示タイムの公表については、競技運営に関する申し合わせ統一事項として、レースの前後を問わず公表しないこととしてきた。

これは、タイム計測の正確性や、レースの予想が当たりすぎて推理する面白味がなくなってしまうのではないかという危惧のためであった。

しかしながら、4大特別競走の場間場外発売、電話投票等、直接観戦することなく舟券を購入するファンが増加していることもありファンサービスの一環として、より多くの推理要素を提供していきたいという競走場も増えている。このため、昭和61年3月5日、審判委員長、競技委員長会議において検討がなされ、その結果“公表はしない”との申し合わせは廃して、各場の任意としてそれぞれ特色のある対応をすることが好ましいのではないか、ということになった。

この「展示タイム公表」は、全国に先がけ尼崎競走場で4月25日から実施され、その後全競走場で公表されていくこととなる。





3月18日 準優勝戦日・優勝戦日の全レース「場外発売」可能に

競走場を利用する場外発売の実施については、従来、準優勝戦、順位決定戦、優勝戦と限られたレースのみ対象とされていた。しかし、全レースの発売を希望するファンの声も多く、関連4団体は連名で昭和61年2月12日付「4大特別競走の準優勝戦日・優勝戦日の全レース発売」についての報告書を、運輸省当局へ提出していた。これが妥当なものであると認められ、同年3月18日付で次のとおり通達がなされた。

海総第86号
昭和61年3月18日
関係地方運輸局船舶部長
神戸海運監理部船舶部長　殿
海上技術安全局総務課長

9月6日／社会党委員長選で、土井たかこが上田哲を大差で破り当選。
8月15日／新自由クラブ、総選挙敗北から解党。田川誠一氏を除いて自民党に復党。
4月1日／男女雇用機会均等法施行。

●競走場を利用する場外発売の実施について

標記について、全国モーターボート競走施行者協議会会長等関係者から、別添のとおり対象とする競走等について報告があったので通知する。

この報告の内容については、妥当なものであると思われるので、今後、競走場を利用する場外発売に関して、施行者等を指導する場合には下記によることとされたい。なお、この場合、競走開催中の競走場に場外発売場を設けるときは、当該競走場の開催運営に支障が生じないよう十分配慮する必要があるので、これについても必要に応じて指導されるよう念のため申し添える。

記

1．対象競走
①鳳凰賞（内閣総理大臣杯）競走
②全日本選手権（運輸大臣旗）競走
③全国モーターボート競走会連合会会長笹川賞（笹川杯）競走
④モーターボート記念（自治大臣杯）競走

2．対象レース
上記に掲げる競走の準優勝戦および優勝戦の行われる、2日もしくはそのいずれか1日に行われるレースの、全部または一部。

3月24日 第21回鳳凰賞競走で通信衛星で映像サービスを実施

昭和60年9月14日、モーターボート競走法施行規則の一部が改正され、場外舟券発売場が設置できるようになった。その、初の臨時特別場間場外発売が、第21回鳳凰賞競走の準優勝戦日・優勝戦日の3月24日、25日の2日間、桐生、蒲郡、住之江、福岡の4競走場で実施された。

本場の平和島競走場をはじめ、連合会、場外競走場では、業界初の臨時場間場外発売を成功させるため、延べ12回の事前会議を開きどのようなレースにすればファンに喜んでもらえるか…、とくに場外実施に際しては“非開催日の競走場”が原則であるため、いかに集客効果を高めるか…、など検討を重ねた。

その結果、場外発売場への情報提供については、モーターボートの場外における情報伝送システムとして、24日・25日の2日間、民間では初めてNTTと協力しての「通信衛星ゆり2号（CS－2b）を使った映像サービス」を、リアルタイムで提供することになった。

この、衛星中継による映像放映、情報提供といったファンサービスは、午前10時から17時まで行われ、レースの実況が場内のモニターテレビやマルチビジョン等に写しだされ、オッズ等は“発売締切後の映像”という不便さはあったものの、好評を得た。

開催結果は、場外発売場の2日間で、入場者は65,079人、売上は13億205万円と、各場とも当初の予想を大幅に上回る成果をおさめた。

12月19日／厚生省の「AIDS対策専門家会議」、四人を認定。日本のAIDS患者二五人となる。
11月15日／伊豆大島三原山が209年ぶりに大噴火。
7月30日／東北自動車道の浦安～青森間全通。

4月15日
ファン対策および場外発売専門委員会を新設

モーターボート競走連絡協議会は、競走の健全な発展に資するため、昭和39年5月21日に運輸省、全国モーターボート競走施行者協議会、全国モーターボート競走会連合会、日本モーターボート選手会、全国競艇施設所有者協議会の委員による構成で生まれ、その協議によって諸要領が制定された。

モーターボート競走が、公営競技としては最後発であるにもかかわらず、今日の発展を見たのは、他競技に先んじて競走場の施設改善に取り組み、ファンサービスの向上を図ってきたからであり、ひいては、モーターボート競走連絡協議会を中心に毎年努力目標を定め、これを着実に実行してきたからといえよう。そして、これらが成されたのは、関係者自らの熱意によって連絡協議会が設置され、施設改善や競技運営、環境対策、警備対策専門委員会による現地調査、専門家の指導・勧告等を、現地競走場が真摯に受けとめてきたからにほかならない。

モーターボート競走業界は、年々施設等の改善を重ね、施設、警備、競技運営、環境等いずれの面においても相当高いレベルに達している。しかし一方では、昭和60年9月の省令改正により場外発売場の設置が認められたのをはじめとする、企画・広報、情報、飲食サービスの充実、快適な環境づくり等に新たな問題も発生、これらに対応していく必要に迫られている。

このため、昭和58年11月の連絡協議会幹事会から7回にわたって、当該問題につき慎重に審議が重ねられた。その結果、4月15日の幹事会において、競技運営ならびに環境対策専門委員会を発展的に改組し、新たにファン対策専門委員会と場外発売専門委員会が設置されることとなった。

なお、ファン対策専門委員会は、後にファンサービス専門委員会に名称が変更された。

6月6日
選手・審判員・検査員の身体検査および適性検査基準の一部改正

モーターボート競走の選手、審判員の身体検査の基準は昭和27年3月18日に、検査員については昭和37年10月19日に、それぞれ登録制度の発足時点で制定された。

以来、競走の重要な職務にある登録者の身体検査および適性検査の基準として厳正に運用され、今日の業界発展の重要基盤として効果を上げてきた。

今日に至って同基準の不合格疾患が事実上なくなっていたり、各種検査基準数値の国際的見直しや検査機器が飛躍的に研究開発されるという医療情勢の改革もあって、連合会では専門医師を中心に研究委員会を設置し、検討を重ねた結果、昭和59年12月10日に、同委員会より答申がなされた。

その後、運輸省と連合会事務局が細部について再三にわたり検討を重ねた結果、昭和61年6月6日に選手、審判員および検査員の身体検査および適性検査の基準が一部改正された。

改正内容の主たる項目は次のとおり。

10月11日／レーガン大統領とゴルバチョフ書記長がアイスランドのレイクキャビクで会談。
4月26日／ソ連、チェルノブイリの原子力発電所で大事故。
2月14日／フィリピン大統領選でマルコス当選するも、2月22日国軍反マルコスへ。2月25日アキノ大統領就任宣言。

●視力

選　手－両眼とも裸眼視力0.5以上。

審判員－両眼とも裸眼視力0.6以上。ただし両眼とも裸眼視力0.1以上で矯正視力0.6以上あるときはこの限りではない。

検査員－両眼とも裸眼または矯正視力0.5以上であること。

●血圧

選　手－収縮期150以下、拡張期90以下。

審判員－収縮期160以下、拡張期95以下。

検査員－収縮期160以下、拡張期95以下。

7月7日
競艇広告大賞新設

企業にとって広告は、単に商品の宣伝を行うということだけでなく、企業イメージの向上に大きな影響を与えるところから、従来にも増してその役割の重要性が高まっている。

公営競技界においてもそれは同様で、新規ファンの開拓に加え、潜在ファン・流動ファンの獲得にも広告は大きな役割を果たしている。モーターボート業界にも、広告・宣伝のより一層の充実が求められているところからこの度、広報活動の健全な発展と質的向上を図ることを目的に、「競艇広告大賞」を設けることとなった。

この広告大賞は、1年間に各競走場で制作使用された広告を一堂に集め、優秀作品を選考し表彰しようというもので、「ポスター部門」と「テレビCM部門」で発足したが、後に「新聞広告部門」を加え、3部門で実施されている。

8月7日
賞金王決定戦競走新設「優勝賞金3,000万円！」に

ファン拡大推進委員会では本年4月から、ファンに興味あるレースを提供し、モーターボート競走の話題性とそのステータスを高めるため、新たに、獲得賞金順位を選考基準とした“人格、技量とも優秀な選手によってその技を競い、最高位者を決定する競走”の新設の可否について検討を重ねてきたが、7月22日に開催された同委員会において、従来のビッグレースでは果たし得ない真の実力者の激突を、ファンの皆様に楽しんでいただくため、出場者は上位12名、優勝賞金はプロスポーツ界最高の3,000万円とすることで意見の一致をみた。

連合会事務局では、選手出場あっせん委員会ならびに連合会常任理事会の承認を受け、運輸省当局へ認可申請をしていたが、8月7日、運輸大臣の認可となった。

なお、第1回賞金王決定戦競走は12月21日から3日間、住之江競走場で開催された。

8月12日
ボートピア丸亀オープン

モーターボート業界待望の「ボートピア」第1号は8月12日、丸亀競走場の専用場外発売場「ボートピア丸亀」としてオープンした。これは昨年9月14日、モーターボート競走法施行規則の省令改正により場外発売が認可されて以来、1年にも満たぬうちの実現である。

その規模は、敷地面積2,210.57㎡、建築面積281.67㎡、窓口数＝発売5窓・払戻2窓・両替1窓、収容人員96名。

★東京中野の公立中学2年生がいじめを苦に自殺。★アイドル歌手岡田有希子が飛び降り自殺。少年少女の後追い自殺が続く。★ハレー彗星が地球に大接近★都心の地価高騰、郊外にも波及★ダイアナ妃来日フィーバー★急激な円高・ドル安。

「ボートピア丸亀」1節目の売上は2,412万円、利用者は延べ3,234人、1日平均売上403万円、利用者1日平均539人で、諸般の事情により情報サービス面では必ずしも十分ではなかったにもかかわらず、関係者の当初の予測“1日売上200万円、利用者300人”を大きく上回る好スタートを切った。

10月24日
選手主体の自主整備方式テスト

業界は競走開催当初から「選手の実力は操縦と整備の総合力。したがって整備も選手自身が行うべき」としてきた。しかし当初は選手の整備能力も低く、モーターの性能もあまり良くなかったため、レース中の事故防止のためにも専門の整備士が実施せざるを得なかった。さらに、部品の節約という点でも選手の整備範囲は限定され、主要部品の交換等の本格的整備は、整備士の業務にならざるを得ないという事情もあった。

こうして整備士中心の整備体制がとられるなか、選手整備については、本来は競い合うべき選手同士が協力し合うという変則的なかたちが定着していった。しかしこれはファンサイドからみれば不自然なことであり、業界としても、他力本願的な現行の体制では、目指すところの「面白い競走」にはほど遠いとして、改革の必要を痛感していた。

そこで、「まず、“整備”を本来のあり方に戻す。そうすれば選手は依存体質を捨てざるを得ず、それは同時にモーター管理責任の明確化や将来の競技関係情報公開に向けての体制整備にもなる」との考え方を基に、テストケースとして平和島競走場で10月24日から3節間にわたり、選手主体の新整備方式を実施することとした。この情報はすぐに全国へ広がって注目を集め、一部には反対の声もあったものの、連合会はこれからの整備士業務についての説明を行い、理解と協力を求めた。

その結果、昭和62年1月末には、すべての競走場で“選手主体の整備方式”が導入されたのである。

11月28日
共同通信情報提供システム本稼動

連合会ではファンとスポーツ新聞各社の要望に応えて、昭和60年12月、共同通信社のネットワークシステムを利用した「全国の新聞社へレース結果および番組編成結果を提供するシステム」の開発に着手した。

このシステムは、連合会に設置してあるホストコンピュータと共同通信社のコンピュータを結合し、連合会のホストコンピュータから提供される全国24競走場のレース結果、および番組編成結果等の情報を、共同通信社のネットワークシステムで編成処理し、全国の共同加盟新聞社へ自動的に配信する、というものである。

昭和61年9月から10月にかけて、連合会と共同通信社のコンピュータの結合テストを、次いで10月下旬からは、共同通信社から加盟新聞社へ実データのテスト配信を実施し、約1ヶ月のテスト期間を経て、11月28日より本番運用が開始された。これにより、共同通信社を通じて各スポーツ新聞社との一元的な制度として、このシステムは成り立った。

12月12日
第1回新鋭王座決定戦競走開催

昭和60年9月に新設された新鋭王座予選リーグ戦は、本年4月蒲郡競走場から9月の大村競走場の第11戦まで実施された。このリーグ戦の成績上位選手46名の参加による「第1回新鋭王座決定戦競走」が、12月12日から6日間、平和島競走場で開催された。

“10年を経てはじめて一人前の選手”という定説のある業界においては、若手のスターがなかなか育たぬ状況であったが、この競走の新設が若手や新人選手にとって大いなる励みとなったのはいうまでもない。

この“登録7年未満の選手たち”によって争われる「新鋭王座決定戦」は、次なる飛躍への登龍門としても話題を呼び、もちろんファンをも魅了して大好評を得た。

「第1回新鋭王座決定戦」の優勝戦は、12月17日、4コースから快速スタートを決めて見事にまくり、快勝した山室展弘選手(岡山)が初代王座についた。

12月21日
1億円レーサー誕生

本年8月新設の「賞金王決定戦競走」は、12月21日～23日の間、住之江競走場で開催され、年間獲得賞金上位12名の選手による“プロスポーツ個人賞金日本一”の3,000万円をかけた熱き戦いを展開した。賞金王決定戦は23日第11レースで行われ、2コースからトップスタートをきった彦坂郁雄選手が逃げ切り、初代チャンピオンの栄誉と賞金3,000万円、黄金のヘルメットを獲得した。1億円レーサー誕生！のニュースは暮れのスポーツ紙面を大いに賑わせ、売上も、3日間6レースで24億7,212万2,700円を記録した。なお、この時の発売集計システムは、他場からの発売集計を短縮するため、NTTの公衆データ通信サービス（DRESS）を採用して行われた。

一方臨時場外場のファンからは「当日、本場で行われている他の競走も発売を」との要望が強くあったため、翌昭和62年7月、関係4団体連名で運輸省当局へ要望書(「賞金王決定戦競走の本場において、当日行われる他の競走についても臨時特別場間場外発売の対象に」との内容）を提出。これに対し7月22日付で通達が出され、「賞金王決定戦競走の3日間、すべてのレースについて臨時場間場外発売が実施可能」となった。

★流行語／新人類★お嬢サマ★激辛★DCブランド★財テク★流行歌／「男と女のラブゲーム」競作★「CHA-CHA-CHA」石井明美★「熱き心に」小林旭★テレビ／ニュースステーション★はね駒★テレビ探偵団★CM／亭主元気で留守がいい（大日本除虫菊）★リードの太鼓判（第一生命）★映画／キネマの天地★火宅の人★グーニーズ（米）★ロッキー4（米）★コーラスライン（米）★書物／「スーパーマリオブラザーズ」ファミコンマガジン★「知価革命」堺屋太一

昭和62年

2月26日　第1回競艇広告大賞
3月16日　(財)競艇保安協会設立
4月7日　有料整備セミナー開講
4月29日　笹川会長「勲一等旭日大綬章」受章
5月20日　整備規程一部改正
5月21日　「ボートピアフェア'87」開催
7月1日　場外発売運営審議会発足
9月2日　場間場外における発売時間締切を本場締切の10分前に
10月7日　選手持ちプロペラ使用の試行に関する要領等制定
10月13日　橋本運輸大臣、レース場を初訪問
10月14日　笹川会長「ガンジー世界平和賞」受章
11月27日　競走の格付け、諸制度の改善等について答申
12月3日　ＪＡＬ女子王座決定戦競走開催

「ボートピアフェア'87」開催

2月26日
第1回競艇広告大賞

広告活動の充実を図るため、連合会では昭和61年7月に競艇広告大賞を創設。1月～12月の間、各競走場で活用したポスター、テレビCMを募集したところ、ポスター部門181点、テレビCM部門37点の作品が寄せられた。

審査の結果、大賞各1点、奨励賞各2点を決定。2月26日、東京海洋会館パシフィックホールにおいて表彰式が行われ、各入賞作品にそれぞれ賞状、トロフィー、副賞が贈られた。以下は審査委員長の講評である。

●ポスター部門

大賞作品（『埼京線告知』＝戸田競艇組合・スタジオアルタ）は、埼京線開通で「所要時間が26分」と身近さを感じさせ、「家族のイラスト」で楽しさを訴求、「ボクの好きな人に」というコピーで博打イメージを払拭するなど、ファンに知らせたい要素が良く整理されている。

●テレビCM部門

大賞作品（『サマータイムレース』＝福岡市・㈱電通）は、映像処理のレベルが高く、訴求したい内容をユーモラスに表現しながら競艇自体も巧みに表現している。他のCMと混在しても目立つものであり、オンエアの回数がすくなくても視聴者の意識に残る水準に達している。

3月16日
（財）競艇保安協会設立

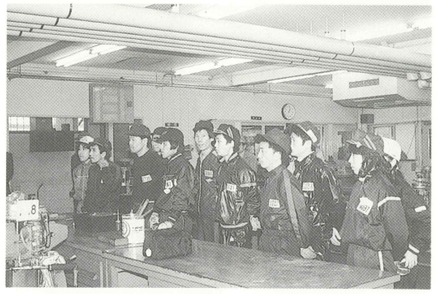
公営競技の開催に当たっては、ファンとの信頼関係の確立や競技場の秩序維持等が欠かせぬ要件であるが、モーターボート競走を取り巻く近年の情勢を見ると、関係者の努力にもかかわらず不正競走に発展する恐れのある事案、あるいは競走場での暴力団、ノミヤ等の違法行為等が未だ目につく。

しかもそれらは、場内外で呼応しながら巧妙化、潜在化、広域化の様相を深めていることがうかがわれ、対処も一段と困難化するなど、競走場等での秩序維持のあり方にも一層の努力と工夫が必要とされている。

このため、モーターボート競走の公正確保および競走場の秩序維持に関する調査研究、資料の収集等の業務の遂行と、競走の健全な発展に資するとともに公共の安全に寄与することを目的に、昭和62年3月、運輸、警察両省庁の下に財団法人「競艇保安協会」が設立された。

4月7日
有料整備セミナー開講

選手主体の自主整備方式が実施（昭和62年1月以降、全競走場で）されて以来、選手の整備に対する向上意識は日増しに高まり、真剣に取り組む姿勢を見せていた。しかしながら大半の選手は、整備力不足をいなめぬ状況にあることも確かであった。



東京都競走会では、選手の整備技量の向上とプロ意識の高揚を図るべく、4月7日・8日の2日間、平和島競走場において有料（3万円）の整備セミナーを開講した。

“有料”としたのは、相応の費用を選手自身が負担することによって、セミナーに臨む心構えができ、整備に取り組む姿勢も確固たるものになるとの考えによる。

このセミナーでは、整備の基本はもとよりそれぞれの競走場に合った整備、あるいは講師を務める整備士が長年かけて培った整備のポイントをも教えようというもので、プロペラ、ギヤケースのシム調整などなど、整備の勘どころが的確かつ説得力豊かに、説明・実技の両面から講じられた。

参加選手は、関係者との懇談の中で口々に“参加して良かった”等の感想を述べたが、選手が自己の整備力向上のために先行投資するのはむしろ当然のこととして、その後この有料の整備セミナーは、全国的に普及し大半の選手が参加していくことになる。

7月4日／政府買上げ生産者米価、5・59％引き下げで決着。
5月12日／自民党と4野党の国会対策委員長会談で売上税の廃案を確認。
4月1日／国鉄が144年の歴史を閉じ、分割民営化、JR6社等発足。
2月9日／初上場のNTT株に買いが殺到。

11月6日／竹下内閣発足。
10月20日／東京株式市場、前日の二ューヨーク市場で市場最大の暴落（魔の月曜日）を受け、前日比3,836円安。
9月22日／天皇腸通過障害で手術、初の沖縄訪問中止。

4月29日
笹川会長「勲一等旭日大綬章」受章

春の叙勲の勲一等受章者に対する勲章親授式が、5月8日、皇居の正殿「松の間」で行われた。

受章者は、勲一等旭日大綬章の（財）日本船舶振興会・笹川良一会長らで、天皇陛下より勲章を、中曽根首相から勲記（証書）を、一人ずつ手渡された。

今回の受章は、笹川会長の長年にわたる人類の福祉、世界の平和、国連への協力や国際親善に対する貢献などの功績が認められたもので、昭和53年の勲一等瑞宝章に次ぐ叙勲であった。

5月20日
整備規程一部改正 ～整備士の協力は指導、助言のみとする～

連合会では各地の検査員・整備士をはじめとする関係者89名の出席を得て5月20日、都インホテルにおいて、昭和62年度第1回技術連絡会議を開催した。

会議では、連合会がレースの魅力向上を目的に、5ケ年間にわたって開発研究してきた新しい「ボート・モーターの構造および諸性能に関する技術」の講話。続いて本年1月以降全国的に実施されている「選手の自主整備方式に関連する整備、検査業務上の諸問題」さらには「人身事故をはじめとする各種事故防止」等について、熱心に討議が行われた。

その結果、整備士の協力は指導、助言のみとする整備規程の一部改正を、また、選手自主整備体制における「緊急時の整備士の作業協力範囲」について、標準的なガイドラインを申し合わせた。

5月21日
「ボートピアフェア'87」開催

連合会では5月21日、「来たるべき新時代への対応」をテーマに、『ボートピアフェア'87』を開催した。これは、かねてより開発してきた新ボート、新モーターおよびAVシアター（大型映像）などの展示発表会であり、会場の平和島競走場に報道関係者、業界関係者約1千人を招いてのオープニングとなった。

会場内はインフォメーションセンター、開発ボート・モーターの各コーナー、AVシアターに分かれ、各ブースごとに新ボート・モーター

ターの構造、安全対策、性能などについての説明やモーターボートグッズの紹介、展示、模擬投票、映像サービス、ビデオプロジェクター、新投票システムの紹介～等、競走の未来を見つめた提言がなされた。

また、報道関係者多数の出席を得ての記者発表会も行われ、今後の業界の取り組みについて説明が行われた。

その後水面では、開発ボート・モーターによる模擬レースを含む「性能デモンストレーション」が繰り広げられ、同時にモーターに余剰出力を発生させる急加速装置（N_2Oモーター）を設けたボートも紹介されて注目を集め、盛況のうちに閉会した。

7月1日
場外発売運営審議会発足

専用場外発売場の設置運営等を円滑にするため設けられていた「場外発売運営委員会」が発展的に解散し、新たに「場外発売運営審議会」が設置された。その業務は、臨時特別場間場外発売に関する指導調整およびボートピアの名称使用に関する審査等の諸業務を拡大したもので、7月1日、発足した。

業務の概要は以下のとおりである。

1．関係省庁との折衝
2．ボートピア設置希望競走場と事前の協議および指導、調整
3．ボートピア設置候補地に対する各称等の使用許可の審査
4．ボートピアの設置、設備、構造等の検討
5．発売システムの検討
6．映像、情報サービスなどの情報ネットワークの検討
7．ファンサービスのあり方の検討
8．臨時特別場間場外発売に関する指導調整
9．その他ボートピアの設置、運営に必要な業務

なお、「臨時特別場間場外発売」に関しては昨年12月に行われた第1回賞金王決定戦競走を機に、臨時場外場のファンから“当日行われる他の競走も発売して欲しい”との強い要望があった。このため場外発売運営審議会発足後の7月10日付で、関連4団体会長名による「臨時特別場間場外発売の実施について」の報告が、運輸省海上技術安全局長宛なされ、運輸省からはこれを妥当として7月22日付海総364号で、関係地方運輸局船舶部長、神戸海運監理部船舶部長宛、“今後について認める”との通知がなされた。

これにより、従来4大特別競走の準優勝戦日、優勝戦日、および賞金王決定戦競走の3日間すべてのレースについて、臨時場間場外発売が実施されることとなった。

5月3日／西宮市の朝日新聞阪神支局が覆面男に襲撃され、記者二名が死傷。
3月26日／国公立大、初の複数入試で約九、五〇〇人の定員割れ。
3月14日／南極海で操業の第3日新丸が捕獲を終え、53年間にわたる南極捕鯨が閉幕。

11月27日／教育課程審議会、69年度からの高校社会科廃止・世界史必修を発表。
10月12日／マサチューセッツ工科大学利根川教授にノーベル医学・生理学賞。
5月13日／首都圏のJR電車の名称「E電」に決定。

9月2日
場間場外における発売時間締切を本場締切の10分前に

5大特別競走における臨時特別場間場外発売の締切時間は、本場締切の30分前であったが、このほど“発売集計オンラインシステムが導入されている競走場にあっては本場締切の10分前として実施する”ことで、関係者に周知された。

臨時特別場間場外へ来場するファンは、舟券発売締切時間が本場締切の30分前であったため、スタート練習や展示航走、オッズ等の推理情報を参考にすることが少なく、不満が残って、改善を望む声が多く聞かれていた。

これに応じるべく関係者は、システムの開発に着手していたが、このほど「発売集計オンラインシステム」が開発され、9月末日までに10競走場で稼動可能となり、他の競走場でも漸次導入されることとなった。

システムを導入した競走場では、締切時間を本場締切の5分前として運用しても、発売後の処理に十分な時間的余裕ができることになったのである。

そこで、昭和62年8月28日付で運輸省当局へ、全施協会長名で「5大特別競走の臨時特別場間場外にかかわる発売時間の延長について」要望書を提出した。

その結果、「モーターボート競走法施行規則の一部を改正する省令の運用についての一部改正について」の通達が、9月2日付で出された。

同通達では、発売集計オンラインシステムの導入競走場にあっては5分間となっているが、初めてのことでもあり、慎重を期す意味からも、運用については当分の間「10分間」として実施することで、関係者に周知された。

10月7日
選手持ちプロペラ使用の試行に関する要領等制定

「プロペラを選手持ちにすべし」とする議論は、ここ10数年にわたって何回か行われてきたが、総論としては、選手持ちが望ましいとしつつもその都度、検査業務の繁雑さ、モーター本体に対する悪影響、選手の経費の増大、選手の整備技量不足、等々の理由により時期尚早ということで実施が見送られてきた。

モーターボート競走の現況をみると、各部門に積極的な施策がとられ、発売方式を中心に一大変革が進行中で、売上も上昇傾向にある。しかしながら入場人員については、現状維持が精一杯というのが現実である。

こうした事態に対応するためにはファン…… 特に若いファンや新しいファンが「面白い」と感じるレースを行わなければならない。

連合会はこうした観点から、新型ボート・モーターの早期採用、さらにはメカニック面での競走の魅力をもアピールしていく方向へと動きはじめた。

“メカ”といえば、それ自体が単一部品で整備の成果を最終的に発揮させ推力に変えるプロペラが最適～ではある。しかし単体部品であるが故にさまざまな制限があるのが実情といえる。

そこで、選手が十分に満足のいく整備をしても、部品費も極端に増加しない方法として“オーナーが備え付けている”プロペラに加え、「選手持ちのプロペラも使用できる」ようにするとの考えが生じた。

しかしその実施に当たっては、業界始まって以来のことでもあり、万全を期すためには本格化する前に試行期間を設け、予測できない問題点についても、十分に対応できる体制で臨む必要がある。

連合会では「選手持ちプロペラ使用の試行について」基本的な考え方をとりまとめ、7月下旬から8月下旬にかけて全国24競走場の施行者、競走会等各関係者に説明を行い、概ねの了解を得た。また並行して選手会の理解と協力を得るために、数回にわたり実施の時期、方法等についても協議を重ねた。

かくて、全関係者の意見を総合的に勘案した「選手持ちプロペラ使用の試行に関する要領」がまとめられ、10月7日、連合会常任役員会に付議し審議承認がなされた。

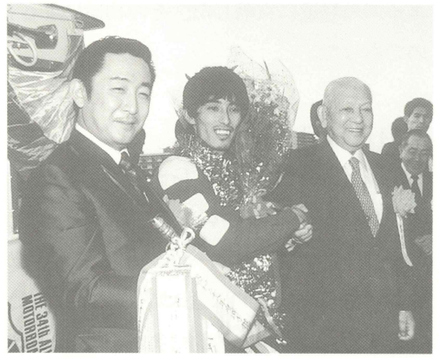
次いで10月15日の技術連絡会議において、「選手持ちプロペラの検査および加工修理に関する要領」等が基本的に了承され、試行期間中に適用される「整備規程」および同運用要領の一部改正についても、基本的に了承された。

さらに12月4日、連合会常任役員会でこれら一連の要領は正式に決定され、12月31日より適用実施となった。

10月13日
橋本運輸大臣、レース場を初訪問

第34回全日本選手権競走は、10月8日から13日までの6日間、平和島競走場で開催され、今村豊選手が優勝した。今回のダービーで最も画期的な出来事は、レース最終日の13日に現職の運輸大臣・橋本竜太郎大臣が初めてレース場を訪れ、若きヒーロー今村選手に、ファンの目の前で直接「運輸大臣旗」を手渡したことであろう。つめかけた3万人のファンも感激した。

また、開会式のイベントでは、ギネスブックでその記録が認定されている世界一のスタントマン、ピーター・フォーク氏による地上30mからの「炎のダイビング」が行われ、TV，新聞、雑誌等でも大きく取り上げられた。



10月14日
笹川会長「ガンジー世界平和賞」受章

（財）日本船舶振興会笹川会長は、10月14日、今年度の「ガンジー世界平和賞」を受章した。

12月☆☆／9日米ソ首脳、INF（中距離核戦力）全廃条約に調印★16日16年ぶりの韓国大統領選で、与党民正党の盧泰愚総裁が第13代大統領に当選。
11月8日／岡本綾子、全米女子プロゴルフ初の外国人賞金女王。
10月19日／ニューヨーク株式市場の下落率22・6％史上最大。
6月12日／英国総選挙で保守党大勝、サッチャー首相3選。

★プロ野球、広島の衣笠祥雄、連続2、131試合出場世界新記録。国民栄誉賞受賞。
★新国劇解散、71年の歴史に幕★「週間平凡」廃刊★後楽園球場50年の歴史を閉じる。
★アスベストの発癌性が問題となり、各地で除去作業★JR、都営、営団地下鉄などに「終日禁煙駅」★マドンナ、マイケル・ジャクソン来日フィーバー。

この平和賞は1984年に創設されてから毎年マハトマ・ガンジーの非暴力主義理念の実現と世界平和のために貢献した人に、ガンジー記念財団が贈っているもので、笹川会長の受章は、マザー・テレサ、カーター元米大統領、アキノ比国大統領に次ぐ4人目である。

受章の理由は、モーターボート競走の収益金を世界各国の公益事業の援助に活用し、特に国連等を通じて天然痘の根絶やハンセン病、エイズの対策に貢献した、その功績によるものであった。

11月27日
競走の格付け（グレード制）諸制度の改善等について答申

今日のようにレジャーが多様化し、人々が自らの好みを積極的に選ぶ時代にあっては、当業界も総合的、多角的に興味を喚起し得る、また選手の個性を引き出すことのできる企画を迫られている。

このため連合会では、「あっせん制度研究委員会」を設置し、競走のグレードをお客様にわかり易い組立に整理するとともに選手の上位志向を向上させるため、競走の格付け、諸制度の改善等について研究を進めてきた。

その結果、同委員会より昭和62年11月27日付で、次の項目について答申がなされた。

1．新設競走等について

①施設改善記念競走の開催条件を整備
②賞金王シリーズ競走の出場資格制定
③モーターボート大賞競走の見直し
④女子王座決定戦競走
⑤ランナ王座決定戦競走
⑥特別タイトル競走

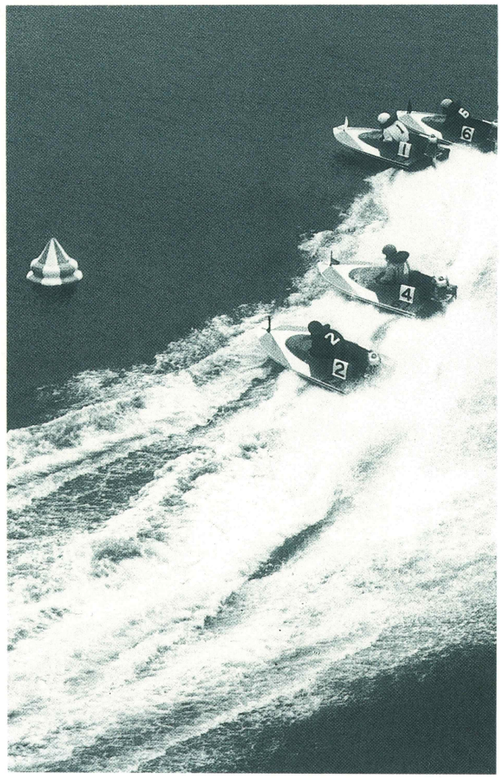
2．諸制度の改善について

①選手級別決定基準
②内閣総理大臣杯および新鋭王座決定戦競走の覇者の優先出場
③女子王座決定戦競走等の優先出場
④名称の統一
⑤あっせん拒否制度
⑥特別競走および準特別競走の開催日数

3．競走の格付け（グレード制）について

①格付けの採用
②格付けの方法
③格の定義

12月3日
JAL女子王座決定戦競走開催



★流行語／地上げ屋★ホーナー効果★〇〇記念日★マルサ★ゴクミ★懲りない〇〇
★流行歌／「命くれない」瀬川瑛子★「人生いろいろ」島倉千代子★「スターライト」光GENJI
★テレビ／チョッちゃん★独眼竜政宗★CM／平行棒をする猫と木登りをする犬（NTT）★ワンフィンガー、ツーフィンガー（サントリー）
★映　画／マルサの女★ハチ公物語★ビバリーヒルズコップ2（米）★書物／「塀の中の懲りない面々」阿部譲二★「サラダ記念日」俵万智

昭和58年8月、23年ぶりに住之江競走場で復活して以来、オール女子レースは各地競走場で行われるようになり、人気もますます上昇していた。こうした状況の中で、話題性に富み、女子選手の大きな目標ともなる「女子王座決定戦競走」が新設された。

この競走は、リーグ戦方式によって選出された女子選手が技を競い、それによって年間の最高位が決定されるというものであるが、同時にまた艇界では初の一流企業の冠大会（JAL）としても注目された。

レースは、4月から9月までの予選リーグ10戦を勝ち抜いた女子選手によって、12月3日から6日間、浜名湖競走場で開催された。

連日白熱したレースが展開され、優勝戦には実力ナンバーワンの鈴木（旧姓田中）弓子選手以下6名が進出した。

降りしきる氷雨の中で行われた優勝戦では、トップスタートを決めた鈴木選手が、小神野選手のつけまいを振り切って快勝。初代クイーンに輝いた。ちなみに鈴木選手のデビューは昭和55年5月。当時は旧姓田中弓子ーというよりも、折りからの山口百恵ブームにあやかっての“競艇界の百恵ちゃん”としてマスコミにも登場、数々の話題を提供した。もちろん実力も、持ち前のスタート力と軽量速攻を武器に、男子顔負けのレース展開を見せ、A級はおろか記念競走への出場も果たしている。その活躍が、女子選手の大量養成への引きがねとなり、オール女子レースの復活ともなったことは、やはり特筆しておくべきであろう。

昭和63年

1月1日　選手持ちプロペラ使用、先行試行開始
2月25日　緊急競走会幹部会議開催
3月4日　ファンクラブ会員10万人の目標設定
4月29日　福岡競走場で午後7時30分まで前日発売を実施
5月18日　笹川記念会館別館竣工式
6月9日　新生江戸川、107日ぶりに再開
6月17日　NEW 1Pレース桐生競走場で開始
7月1日　中央情報処理システム改善稼動
8月8日　業界初の大型映像装置、住之江競走場で放映開始
10月14日　電話による予約投票開始
11月1日　選手の最低体重制度順調にスタート
11月17日　整備規程違反防止対策特別委員会設置

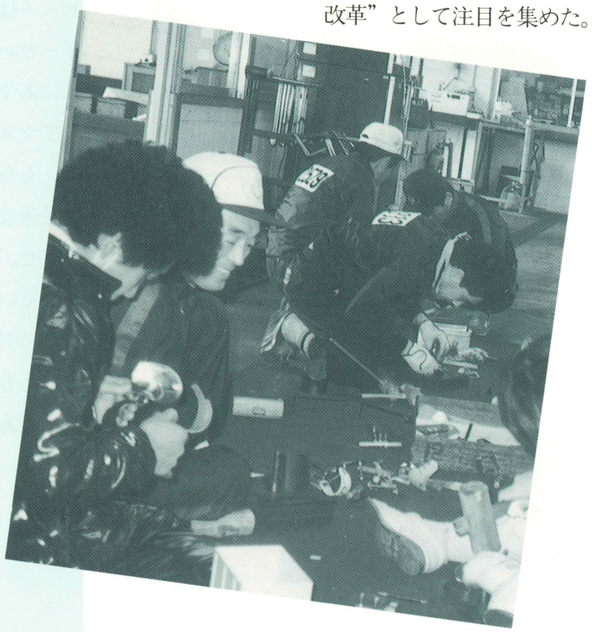
ファンクラブ会員10万人の目標設定

1月1日　選手持ちプロペラ使用、先行試行開始

「選手持ちプロペラ使用」は、メカニック面での魅力もアピールしてレースをより楽しく…、また既に実施中の“自主整備”により選手が事前にプロペラ調整を行ってくることで、プロペラ修整に要する時間が著しく短縮されるところから、モーターの整備に力を注ぐことができる…　などの意図により生まれたが、昭和63年1月から、5月の全場試行実施に照準を合わせ、事前に問題点を改善するため、その先行試行を開始。平和島、住之江、福岡の3競走場で実施された。

ポスターやチラシ、出走表等による事前のPR、さらにはマスコミ等を通じて周知されていたこともあり、ファンの反応も特に問題もなく、試行は順調にスタートした。

この「選手持ちプロペラ使用」は、競艇30有余年の歴史の中でも“競技運営面の新たな改革”として注目を集めた。



2月25日　緊急競走会幹部会議開催

昭和63年2月23日夕刻、昭和57年～58年当時、江戸川競走場において投票業務に絡む不祥事件があった。とのNHKニュースに、関係者は驚愕。江戸川競艇の管理施行者は、直ちに緊急理事会を開いて調査委員会を設置し、緊急記者会見をも行った。しかし、NHKニュースで放映されたこの“的中舟券追加疑惑”は、またたく間に全国に広がり、テレビ、新聞等でも大きく報じられるところとなった。

江戸川競走場の一部幹部による単独犯行とはいえ、競走の公正を根幹からゆるがすこの重大な問題に対し、関係者は全力を尽くして一刻も早く事実を究明し、信頼を回復しなければならなかった。

連合会では25日、緊急競走会幹部会議を開いて事件の内容、経過を説明するとともに、運輸省、連合会、施行者協議会、選手会の対応についての報告、今後の対応策についての意見交換をおこなった。

会議は、最後に「緊急競走会幹部会議確認事項」を満場一致で可決、二度とこうした不祥事件を起こさぬよう、競走会として最善の努力を傾注することを明確にして終了した。

●緊急競走会幹部会議確認事項

このたび、NHKはじめ報道機関によって報じられた、江戸川競走場における投票業務にかかわる不祥事件は、当該競走場の開催施行者の責任ではあるが、業界の一員として施行者と相協力し、競走の公正安全の確保に努めてきた競走会としても、モーターボート競走をご愛顧いただいているお客様に多大なご迷惑をおかけしましたことは、誠に残念であり遺憾の極みであります。

このうえは、一日も早く司直の手によって事件の真相を究明していただくとともに“ファンあってのモーターボート競走”であるとの原点に立ち返り、今後一層襟を正し、選手指導はもとより競技運営全般にわたって、信頼の回復に関係者一同最善の努力を傾注いたしたい。

昭和63年2月25日

（社）全国モーターボート競走会連合会

3月4日　ファンクラブ会員10万人目標設定

昭和57年7月、ファン拡大推進委員会ではモーターボート競走総合企画研究委員会の答申に基づき、ファン拡大の基本施策の一環として、公営競技としては例のない「ファンクラブの設置」を全国に呼びかけた。その結果、同年度中にほぼ全場で、ファンクラブが結成されることとなった。

当初は、一競走場当たり2,000名の会員を目標に募集、昭和58年度には27,000名の会員数に達した。その後毎年「会員数増加」を図り、昭和62年度には74,700名の会員を得るまでに成長した。

●政治経済

9月8日／社会民主連合の楢崎弥之助代議士、リクルートコスモスの社長室らの贈賄工作を告発。
6月18日／川崎市助役、リクルート社未公開株取得による不当利得が発覚。リクルート事件の発端となる。
4月1日／国土庁、88年1月1日現在の地価公示。東京の地価は前年度比68・6%史上最高。
4月1日／「マル優」制度廃止。

11月10日／自民党、衆議院税制問題等調査特別委員会で消費税等税制改革関連6法案を単独強行採決。
9月19日／天皇陛下吐血して容態急変。9月22日閣議、全国行事行為の皇太子への委任を決定。
3月13日／世界最長の青函トンネル開業。53・85㎞。

こうした状況下、3月4日に開催されたファン拡大推進委員会では、会員のさらなる増員とその組織の活性化を図るため、競走場における最重点施策のひとつとして、昭和63年度末までに「全国で10万人の会員数」を確保すべく、その目標数が設定された。

これを受けた連合会では、6月8日にファンクラブ全国担当者会議を開催、会員増加のための提案を行い、種々の検討を重ねた。結果として、全国規模の会員募集キャンペーンを実施することを決定した。

キャンペーンは、各競走場ごとに7月下旬から2カ月間、それぞれの目標達成を図るというもの。その結果、平成元年1月までに“10万人目標会員数確保”は無事達成された。

4月29日
福岡競走場で午後7時30分まで前日発売を実施

福岡市は九州を代表する人口118万の商業都市である。競走場はその都心に近く、徒歩でも10分程度という立地条件の良さもあって従来より、ファンサービスの一環としても…と、サラリーマン等の退社時間後の舟券前日発売が強く望まれていた。これに伴い、その実施についての構想も関係者の間では早くから検討され、条件の整備が進められていた。

ここで「前日発売」の経緯を辿ってみると、まず昭和57年3月下関競走場で開催された第17回鳳凰賞競走（現総理大臣杯競走）において、初日の競走の勝舟投票券の発売を前検日に実施。以降常設的に蒲郡（昭和58年11月）、三国（昭和59年2月）、下関（昭和59年5月）が、また5大特別競走等の開催時では戸田、浜名湖、住之江、芦屋競走場で臨時に実施している。

連合会では昭和61年3月、会報の特別号で「今日ご来場のお客様（ファン）のなかで、翌日も来場可能な方は限られている。明日は来られないが、今日のうちに舟券を購入したい～とお考えの方のために、前日発売を実施していきたい」と提言しているが、以来2年間を経過した。しかしいよいよ本年4月29日より、福岡競走場において、画期的ともいえる時間「午後7時30分まで」が実施されることとなった。

前日発売は、業務煩雑の割にはメリットが少なく、地元対策や組合（従業員）対策が必要とされていた。しかし、ファンの利便を第一に考えたサービスとして、今後、その成果が大いに期待される。

10月1日／天皇陛下の容態悪化で行事・興行・広告・宣伝など自粛相次ぐ。
7月23日／横須賀で自衛隊の潜水艦「なだしお」と釣り船「第一富士丸」が衝突。三〇人死亡。
4月10日／世界最長の道路、鉄道併用の瀬戸大橋が開通。海峡部9、368㎞。
3月18日／東京ドーム球場、開場記念オープン戦。

5月18日
笹川記念会館別館竣工式

昨年6月10日に着工された笹川記念会館別館の新築工事は、約11ヶ月の工事期間を終え完成の運びとなった。

連合会では5月18日正午より、完成した別館7階フロアにおいて、関係者110名の出席を得て竣工式を挙行した。

式は御田八幡神社の宮司による修祓・降神の儀の後、笹川連合会会長をはじめとする関係者18名により玉串奉典が行われ、12時30分滞りなく終了した。

完成した「笹川記念会館別館」には、より充実した連合会情報処理システムが完備され、情報の本拠地として“いつでも、どこでも、おもしろい”競走を提供するための運用が開始されることとなった。

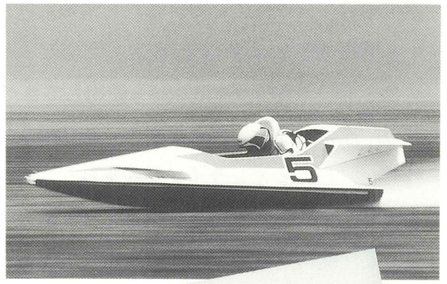
6月9日
新生江戸川、107日ぶりに再開

昭和57年～58年当時、的中舟券の不正発行という不祥事により、開催を自粛（3月から）していた江戸川競走場は、二度と起こさぬようにと、場内モニターテレビを大幅に増設し、オッズ・発売票数を常時表示することとした。さらには競技進行方法をスタート練習→展示航走→発売→発売締切→本番という進行に改め、舟券発売の一斉締切が厳守されるシステムを導入するなど、再開へ向けてのさまざまな改善を行った。かくして6月9日、107日ぶりの再開となった。

初日9日は新モーターを採用、文字どおり新しく生まれかわった江戸川競走場のスタートとなったが、再開を待ちわびたファンは、この日13,000人がつめかけ、順調なすべり出しとなった。

6月17日
NEW1Pレース桐生競走場で開始

NEW1Pボートの開発に当たっては、連合会技術研究室が話題性のある斬新なスタイリングと最高速力の向上を図り、安定性、安全性を追求して、5年の歳月をかけ試作、研究を重ねて完成したが、このほど全国に先がけ桐生競走場が導入。6月17日、その勇姿をファンの前に見せた。



昭和62年度
グッドデザイン商品選定証
選定番号 62M1003
部門名 M 輸送機器部門
商品名 レース用モーターボート
型式 Newtp 1P2K
申請者 社団法人 全国モーターボート競走会連合会 会長 笹川良一
デザイナー 社団法人 全国モーターボート競走会連合会＋有限会社 デルテック
上記商品はそのデザインが優れたものとして選定されたことを証します
昭和62年10月29日
通商産業大臣 田村 元

11月8日／米国大統領選挙で、共和党ブッシュ候補当選。
9月17日／第24回ソウルオリンピック過去最高の160ヶ国・地域から一万三千六二六人が参加。
8月20日／7年余り続いたイラン・イラク戦争で停戦協定成立。
7月3日／米のイージス艦、ペルシャ湾でイラン旅客機を誤認し撃墜。二九〇人死亡。

7月1日
中央情報処理システム改善稼動

モーターボート競走における各種データは連合会センターのコンピュータと各競走場の端末機をNTT回線で結び、端末機で入力したデータはオンライン・リアルタイムで連合会センターに送られ、蓄積されている。

競走場端末機からは、連合会センターにある情報オンラインで自由に出力できるが、その内容は、①選手成績　②ボート・モーター成績　③売上・配当金・事故　④あっせん　⑤選手賞金　⑥選手情報　⑦その他、等10の選択項目に分かれている。これら情報処理を中央情報処理システムと呼び、コンピュータはNECのACOS430／20を使用してきた。

一方、連合会ではこれとは別に、臨時場間場外発売におけるオンライン発売集計システムを開発、この処理を行うコンピュータに大容量、高性能のACOS610／20を昭和62年6月導入し、10月 開催の第34回全日本選手権競走の臨時場間場外発売より運用を開始した。

昭和63年5月の笹川記念会館別館の完成とともにここに移転した「連合会コンピュータ室」はこれを機に、システムをACOS610／20に切り替え、従来のACOS430／20はファンクラブ管理、統計データ処理等を行うこととした。

中央情報処理システムの改善については、アンケート調査を行って各種要望事項をまとめ、総合的な検討を加えた結果、次の3点について改善を行うことになった。

①新規業務処理プログラムの開発

②出力データ算出期間の見直し（節単位、あっせん単位）

③コード体系の見直し

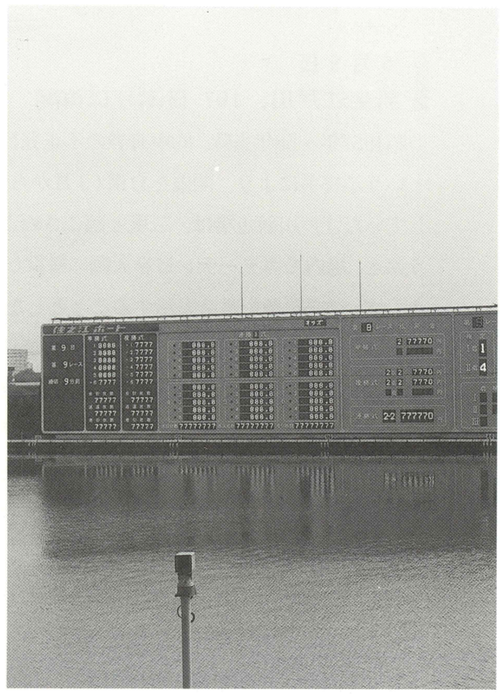
なお、これに伴い改善を行った項目は、番組支援システムを含め、28項目、新規作成プログラムは6本となった。

この改善システムは、7月1日より稼動し、より充実した内容で活用されている。

8月8日
業界初の大型映像装置、住之江競走場で放映開始

住之江競走場ではファンサービスの一環として、業界初の大型映像装置を対岸のオッズ盤右横に設置。8月8日、9日のモーターボート記念競走臨時特別場間場外発売時から放映を開始した。

この大型映像装置は、昭和61年・62年度に実施したファン実態調査結果にもあったように、かねてからのファンの要望に応えるとともに、最近の入場者減少に歯止めをかけたいとの意図から設置されたもので、天候を問わず美しく精細な画質が得られ、より一層迫力のあるレース提供を可能にした。



画面寸法は縦9.0m、横12.8mと大型で、真昼の太陽光下でも高コントラストを保ち、くっきりとした高鮮明画像が得られ、またスタンドの隅々から見ることができるよう水平方向に“広角設計”されている。

この大型映像装置の導入により、通常のレースはもとより臨時場間場外発売時に、従来は場内テレビを利用して放映していたものが「実況」として映し出されるため、椅子席に座ってレースを楽しんでいただけることとなり、多くのファンから好評を博している。

10月14日
電話による予約投票開始

電話投票は、遠隔地のファンや舟券を購入したくても都合で競走場まで行くことができないファンのために考えられたシステムで、昭和60年5月に平和島競走場で導入されて以来、おおむね好評を得ている。しかし機能面では、“加入している競走場で開催される競走のみの舟券の購入”に制限されており、類似競技の電話投票の実施内容、あるいは多様化が進む社会の風潮からみれば、その利便性・サービス面で十分とは言えなかった。

一方、既存の電話投票会員からは、電話による舟券購入の手続きをもっと簡略化して、少額で楽しめる方法はないか、等の要望が出ていた。

こうした会員の要望実現と、他競技の電話投票制度から一歩先行するため、連合会ではモーターボート競走における電話投票の機能アップについて検討を重ねてきた。その結果開発されたのが「予約投票システム」という新しい投票方法であった。

このシステムは、1日に任意の3レースを一度の電話コールによって購入予約し、購入者が途中で継続投票を中止しない限り、当該レースの払戻金および返還金が、次に予約しているレースの購入資金（投票資金）に自動的に繰り入れられる～というものである。

第一投票の購入資金が的中することにより、その払戻金が予約している第二投票の購入資金となり、第二投票で的中すればその払戻金が第三の資金に、第三で的中すれば会員の口座に払い戻される。つまり、少額でしかも購入手続きが簡単、レースを十二分に楽しめる

★国会で歌手のアグネス・チャンが子連れ出勤を論じ、アグネス論争盛ん。
★粉塵公害防止のためスパイクタイヤの製造中止が決定 ★アサヒドライビールが大流行するとともに、食物繊維の栄養飲料が爆発的人気となる。
★横綱千代の富士、九州場所で53連勝達成。歴代2位。

★流行語／朝シャン★下血★オバタリアン★今宵はここまでにいたしとうございます。
★流行歌／「乾杯」長渕剛★「乱れ花」大月みやこ★「ふたり」少年隊
★テレビ／教師ビンビン物語

という、他競技にも類を見ないものである。

この投票システムは、既存の電話投票会員であれば誰でも利用でき、10月14日に戸田競走場で、さらに11月13日に平和島競走場でも開始され注目を集めた。なおこのシステムでその後、戸田競走場において“３レース的中”「1,000円の元金で258万円！」が記録されている。

11月１日
選手の最低体重制度順調にスタート

選手の減量については、“過度な減量”による健康への悪影響や競走運営への支障が懸念されていた。このため連合会では、医学的な面から選手の健康状態を把握し、正しい減量の方法を指導する必要があると判断、昭和50年９月に減量防止対策研究委員会を発足させ検討を行った。

その結果は以下の答申書として、昭和51年５月15日付で報告された。

●減量防止対策研究委員会答申書

調査時点では、直ちに競走の将来が危ぶまれるほどではないにしても、長期にわたる減量生活が健康上好ましくないことは医学的見地からも明白であり、指導の必要性がある。

その後、この答申書に沿って「正しい減量法」の指導がなされたが、一部の選手は従来どおりの“減量＝勝利”に固執していた。しかもそれは実力伯仲の一流選手に多く、なかにはすでに健康体を失いつつある者もいた。

昭和63年１月、連合会では全選手を対象とした減量に関するアンケートを実施した。その集計によれば、多くの選手が未だ減量を行い、一部選手においては胃腸炎、肩凝り、腰痛、筋肉痛を訴えるなど、著しく健康を害していることも明らかになった。

これを放置すれば、いずれは体力や気力の減退、ひいては注意力散漫による事故も発生しかねず、競技運営上にも諸種支障の生じる恐れがあった。このため連合会は、選手会をはじめ競走会や施行者等、業界全関係者の理解と協力を求めた。

★ＣＭ／パンチを打つタイソン（サントリー）★オノヨーコ、人間のKDDI（KDDI）
★映画／敦煌★マリリンに逢いたい★ラストエンペラー（英、伊、日）
★書物／「ゲームの達人」シドニー・シェルダン★「大国の興亡」ポール・ケネディ

かくて、昭和63年６月24日付で「選手の最低体重に関する重量調整要領」が制定され、競走に出場する際の選手の最低体重は男子50ｋｇ、女子45ｋｇと決定した。なおその実施については７月中旬、全選手に対し周知徹底がなされ、11月１日以降を初日とする競走から全国一斉に開始。好評裡に推進されている。

11月17日
整備規程違反防止対策特別委員会設置

昭和62年９月の桐生競走場における「地元有力選手の私物部品持ち込み発覚」は、関係者に大きなショックを与えた。連合会は直ちに全競走場参加の実務担当者会議を開催、検査体制の見直しと検査内容の充実を図った。並行して選手会は、この種事案により退職する選手の退職金の20％カットを決定。同時に選手会支部単位で研修会を開催、業界をあげての決意を周知し、選手の自覚を促した。

しかし整備違反の発生は相次いだ。連合会は、競走会業務担当役員会議、同幹部会議を次々と開催して指導、検査等の充実を確認するとともに、根絶のためには司直の手を借りることも辞さぬ構えを表明した。

苦悩の末連合会は、本年４月３日に大村競走場で発生した整備違反が多くの疑惑に包まれているところから、長崎県競走会と連名でこの事案の当事者を６月28日、モーターボート競走法第38条違反の疑いで告発。長崎県警は同日、事案の当事者・石橋正明元選手を逮捕し、その供述に基づいてさらに７月11日、国光秀雄、蒲原陽一、江川寛の現役選手を逮捕した。

選手会は、自粛欠場期間の延長、退職金の受給資格剥奪を決定、７月には退職金100％カット、と制裁を強化する。しかしそれでも一部の心無い選手による整備違反は止まず、９月４日の桐生競走場周年記念競走では、これまで数々の記録を達成した艇界のスーパースター彦坂選手までもが違反を侵す。業界は創草以来の非常事態に直面するのである。

連合会ではまたもや緊急・諸会議を開催するが、これら会議での共通した意見としては以下の内容が大勢をしめた。

①選手のみ責めるのではなく、全関係者が総反省し、共通の認識のもと心を新たにしてこの問題に取り組む必要がある。
②有名選手、地元看板選手を甘やかしてきたきらいがある。
③未然防止のための特別委員会を設置し、競走運営の基本的な部分まで見直しを行い、抜本的な対策を構じる必要がある。

諸会議を経て連合会では「整備規程違反防止対策特別委員会」を設置、業界全体の方向づけを行っていくこととした。

連合会長の諮問機関である同委員会は、昭和63年11月17日から平成元年２月６日までの間、計５回にわたって慎重審議を重ねた。

その結果、モーターボート競走事業に携わる選手および全関係者の倫理意識の高揚を図り、違反ができぬような環境づくりをするための内部牽制システムの確立、および諸規程の整備を行う必要がある旨の答申を行った。

平成元年

1月7日	天皇陛下崩御各公営競技6日間開催を自粛
1月23日	鈴木弓子選手サヨナラ会見
3月24日	出走表研究委員会答申
5月1日	プロペラの選手持ち制度本実施
5月10日	笹川会長初の国連親善大使に任命される
8月30日	選手入所選考試験応募資格の一部改正
9月4日	倉田栄一選手3,000勝の大記録達成
10月19日	40周年記念事業企画委員会を設置
11月17日	臨時特別場間場外発売を拡大
12月12日	競走場に銀行のキャッシュコーナーを設置
12月19日	第4回賞金王決定戦競走で、売上249億円を記録

プロペラの選手持ち制度本実施／倉田栄一選手3,000勝の大記録達成

●政治経済

8月9日／海部俊樹内閣組閣
6・7月／6月2日宇野宗佑内閣組閣★7月23日参議院議員選挙で与野党逆転★24日宇野首相参院惨敗と女性問題で退陣表明。
4月1日／消費税スタート、ほとんどの商品・サービスに3％の課税。
1月7日／天皇陛下、十二指腸部腺癌で午前6時33分崩御（八七歳）皇太子明仁親王即位、平成と改元（1月8日施行）★2月24日昭和天皇大喪の礼、新宿御苑で実施。

1月7日
天皇陛下崩御各公営競技6日間開催を自粛

昭和64年1月7日、昭和天皇が皇居・吹上御所にて崩御された。

昭和天皇は、25歳で皇位を継承、以後激動の時代を生き抜かれ、87歳のご生涯であった。陛下が亡くなられてから直ちに皇太子明仁親王殿下が皇位を継承、125代の天皇に即位され、足かけ65年におよぶ「昭和」は幕を閉じた。

政府は同日午後、臨時閣議を開き、新元号「平成」を制定、翌1月8日からスタートとした。

昭和天皇崩御が発表された1月7日、各公営競技は直ちに開催中止を決定、崩御当日を含め6日間開催を自粛し喪に服することとした。

昭和天皇の「大喪の礼」は、2月24日、東京新宿御苑を中心に行われ、ひつぎは八王子市の武蔵野陵に埋葬された。

1月23日
鈴木弓子選手サヨナラ会見

昭和54年4月、一人の少女が競艇選手を目指して本栖研修所の門を叩いた。

鈴木弓子（旧姓田中）その人である。

研修所入所当時からデビュー、結婚、出産、復帰、そしてJAL女子王座決定戦初代女王と、その節目ごとに何度も多くの注目を集め競艇界の百恵ちゃんと親しまれて、今日の女子選手大量養成の引き金ともなった鈴木選手には、プレッシャーもまた測り知れぬほど大きいものがあったにちがいない。

しかし平成元年1月23日、笹川記念会館で行われた「サヨナラ会見」で鈴木選手は、「9年間の選手生活に悔いはありません。一番うれしかったのは女子王座を制した時…。一番苦しかったのはデビューしてマスコミに騒がれた時。実力がついていかなくて…　かなり苦しかったです」と、報道関係者を前に淡々と語った。そして「女子も男子に負けないで頑張って欲しい。ファンの皆様、これからも女子選手をよろしくお願いします。」と締めくくった。

9年間の思いを、2月16日から19日までの地元蒲郡競走場での引退レースに託し、鈴木弓子選手は競艇界を去っていった。

3月24日
出走表研究委員会答申

モーターボート競走における出走表は、公報としての性格を基本にお客様の希望や意見等を取り入れながら、各場独自に作成している。しかし競走場間のお客様の交流が盛んになるに従い、出走表に対する要望事項が種々でてきた。例えば、

1．各場のレイアウトが不統一で見づらい。
2．特に初心者の知りたいことが掲載されていない。
3．直近の競走成績が積算されていない。
4．スタートコース、タイミングを掲載して欲しい。
5．現在、フライング、出遅れを持っているのがわからない。

等といった内容のものが多かった。

特に5大特別競走では、臨時場外発売が全場参加のもとに行われているが、本場から送られてくる番組表や各種データが、普段自場で使用している出走表とは異なっており、配列等をレイアウトし直さなければならないため、レース終了後帰途につくお客様に、翌日のアプローチとしての出走表が渡せず、ファンサービスに欠けているのではないか一等の問題が提起されている。

さらに今後、場間場外発売における併売方式の採用やボートピアで複数競走場の発売が実施された時、掲載内容がそれぞれ異なっていたのでは、大きな戸惑いの要因となろう。

このような将来対策も含め、“見易く、使い易く”するにはどうしたらよいのか、統一できる項目は？若い世代にはどう応えればよいのかなど、出走表に関する問題点を摘出し多岐にわたって検討するため、昭和63年4月25日、ファン拡大推進委員会の下に「出走表研究委員会」が設置された。構成は関係団体を代表する14名の委員による。

同委員会は、同年5月より平成元年3月9日までの間、5回にわたって慎重な検討を重ねた後、お客様の利便性を第一に、基本的な項目についてはできるだけ統一する方向で、新しいモデルを作成した。

8月25日／天皇陛下の次男礼宮様と学習院大学生川島紀子さんの婚約発表される。
8月10日／八王子で強制わいせつ罪容疑の宮崎勤、野本綾子ちゃん殺しを自供。アニメビデオマニアの殺人事件として問題化。
4月11日／川崎市の竹やぶで1億円余の札束発見、東京の商事会社社長の金であると判明。
1月7日／天皇陛下崩御を機に各種行事・弔旗掲揚問題や憲法・天皇制論盛ん。

5月1日 プロペラの選手持ち制度本実施

プロペラの選手持ち制度は、自主整備方式の一連の流れとして昭和63年5月1日から平成元年4月30日までの1年間にわたり、全競走場で試行されてきた。

この間連合会は、日本モーターボート選手会とプロペラに関する会議を数回にわたり開催。試行については、選手の整備技量向上が図られ、なおかつ競走の活性化にも結びついているところから、今後は「本実施」への移行が望ましいと、合意した。

これを踏まえて連合会は、関係団体と連絡会議を開催するとともに、連合会常任役員会の議決を経て、平成元年5月1日から、プロペラの選手持ち制度を試行から本実施へ移行する決定をした。

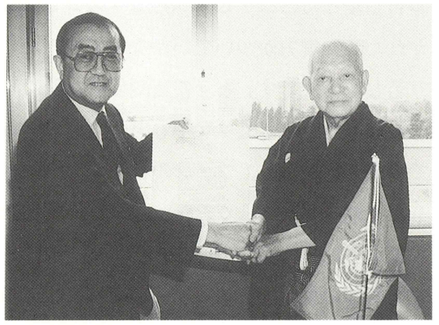
また、選手が競走場に持ち込めるプロペラの枚数については選手自身「3枚あれば十分対応できる」としていることから、前日検査における重量検査時間なども考慮し、5月1日から7月31日までは2枚以内、8月1日以降は3枚以内とすることになった。

この「プロペラの選手持ち制度」は、これまでプロペラを含む“整備”を不得手とした選手も努力するようになり、それがひいては選手全体のレベルアップへとつながり、その結果、自主整備方式とも相まって選手個々の整備技量が十分に発揮できるようになるなど、“迫力あるレース、面白いレース”へと着実に結びついてきている。

5月10日 笹川会長初の国連親善大使に任命される

5月10日、スイス・ジュネーブの国連欧州本部で開催されたWHO年次総会で、笹川会長は、同機関としては初の親善大使に任命された。

WHOが会長を親善大使に任命したのは、かねてより健康・長寿・幸福をモットーとして世界的規模での平和活動を推進してきたこと。また、地球上から天然痘やエイズ撲滅対策に熱心に取り組んできたこと、等の業績を評価したものである。



8月30日 選手入所選考試験 応募資格の一部改正

従来、第2次入所選考試験（適性）で不合格となった者は再受験を認めないこととなっていたが、第68期選手入所選考試験からは再受験を2回までに限り認めることが、8月30日、決定した。

これまで再受験を認めなかったのは、試験課目にボートへの乗艇、特殊な機器を使用した適性検査等があるため、受験経験者が有利となり、評価に不公平を生じるとの理由からであった。しかしながら現状では、優秀な人材を確保することが難しくなりつつあり、また時流の変化もあって、

①試験ごとに受験者のレベルに格差があり、このためハイレベル者が集中したときの不合格者の中に優秀な人材もいる可能性がある。

②マリンスポーツ、モータースポーツの大衆化などで、類似経験を有する者が多くなり、受験経験が3回以内程度であればさほど不公平は感じられない。

③受験者の中には、たまたま試験当日体調の悪かった者がいる可能性がある。

…… 等の理由により、第2次入所選考試験（適性）の“再試験を認める”こととなったものである。

なおこの制度は、第68期選手募集から適用されている。

9月4日 倉田栄一選手3,000勝の大記録達成

競艇の最多勝記録更新中の倉田栄一選手が、地元の津競走場で9月2日から6日間にわたり開催された競走に出場。9月4日の第3レースでインコースからトップスタートを決めて逃げ切り、昭和28年1月のデビュー以来足掛け37年8,922走目で、史上初の通算3,000勝の偉業を達成した。

倉田選手の絶頂期はデビュー3年目の昭和30年～40年の11年間で、毎年100勝以上を記録。昭和36年には現在のSG競走である笹川賞競走の前身「全国地区対抗競走」、および「全日本選手権競走」で優勝している。さらに昭和38年、39年にはモーターボート記念競走を連覇して、“競艇の神様”と呼ばれた。

しかし昭和45年10月、住之江競走場で行われた全日本選手権競走の優勝戦1周1マークで接触し転覆、左ヒザをプロペラで損傷、58針も縫うケガを負う。脂も乗りきった38歳の時のでき事であった。

▲サンケイスポーツ(9/5)

その後は後遺症に悩まされ、手術を重ねること実に9回。再起不能といわれながらも不屈の精神で克服、リハビリを続けて見事復活を果たした。以来今日まで、左足をかばいながらのレースが続いている。

「努力と忍耐」を座右の銘に3,000勝を達成した倉田選手は語る、「まだまだ体力の続く限り走らせてもらいます。第二の人生なんて考えてません。これからも一走一走大事に走って、記録を積上げていきたいですね。」

その倉田選手に、2カ月後の11月6日「津ベストシチズン賞」が決定した。この賞は、津市の名を全国に知らしめた人に対する賞で、津商工会議所より贈られる。これまでに、大相撲の尾車親方（元大関琴風）、KJ法の考案者・川喜田二郎中央大学教授、岡三証券の加藤精一社長に贈られており、倉田選手はこれに次ぐ4人目の栄えある受賞となった。

12月22日／ルーマニアのチャウシェスク独裁政権崩壊、12月25日大統領夫妻処刑。
11月9日／東独、ベルリンの壁を実質的に撤去。
6月3日／イランの最高指導者ホメイニ師死去。
4月15日／中共前総書記胡耀邦急死。学生、天安門広場で追悼集会。5月13日北京の学生ハンスト開始。5月19日戒厳令発令、6月4日戦車等で学生を制圧。

★歌謡界の女王美空ひばり死去、国民栄誉賞。
★大相撲横綱千代の富士が965勝の史上最多記録達成、国民栄誉賞。
★昭和ブーム、マスコミ・出版・ビデオなどで昭和を冠したものが大量に出される。
★清涼飲料「はちみつレモン」が大人気、各メーカーが同一名の商品を続々発売。

10月19日
40周年記念事業企画委員会を設置

ファン拡大推進委員会は7月21日の会議において、モーターボート競走が平成3年度に法制定40周年を迎えるため、業界はこれを記念して節目にふさわしい記念事業を計画し、ファンをはじめ競走運営に深いご理解をいただいている周辺住民の方々に対し感謝の気持ちを表すと共に、モーターボート競走の有益性を広く社会に訴え、将来へ向けてより一層の発展を期するため、これを積極的に推進していくことを決定した。

記念事業の具体的内容については、同委員会のもとに諮問機関として「40周年記念事業企画委員会」を設置し、検討していくこととした。委員会は関係団体代表委員9名で構成され、10月19日、第1回委員会を開催。次の項目について具体的な検討がなされた。

1．40周年を記念する事業について
2．ファン感謝企画について
3．競走の普及キャンペーン
4．法制定40周年記念競走
5．記念式典
6．その他

11月17日
臨時特別場間場外発売を拡大

臨時特別場間場外発売は、昭和61年3月の第21回鳳凰賞競走以来、平成元年10月の第36回全日本選手権競走まで延べ19回302臨時場外場が参加し、大きな成果を収めている。

しかしながら臨時特別場間場外発売は、5大特別競走の準優勝戦日・優勝戦日など年に11日に限られており、ファンなどから、同競走の発売対象日数の増加に併せてさらに発売対象競走を地区選手権競走と周年記念競走にまで拡大して欲しいとの要望があり、その期待度は一層高まっていた。

これら状況を踏まえて業界は、臨時特別場間場外発売の改善について10月26日、関連団体長名(連合会、全施協、全施設協、選手会)で運輸省海上技術安全局長宛要望書を提出。これを受けて運輸省当局は、平成元年11月17日付「海総第486号」で、この内容については妥当とし、各地方運輸局船舶部長宛通達が出され、平成2年4月から、

①5大特別競走（除くグランプリ競走）については、当該競走が行われる日のレースの全部または一部。ただし、準優勝戦または優勝戦が行われる日以外の日の地区外における発売は、自場において2日以上（準優勝戦および優勝戦が行われる日を除く）の併用発売を実施する場合に限る。

②周年記念競走・地区選手権競走については準優勝戦または優勝戦が行われる日のレースの全部または一部。ただし、対象競走を実施する競走場が存する地区の場外発売場とする…… と、条件はあるものの5大特別競走（除くグランプリ競走）は全日程、全レース。また新たに周年記念競走・地区選手権競走の準優勝戦と優勝戦の行われる2日間の発売が可能となった。

12月12日　競走場に銀行の
キャッシュコーナーを設置

丸亀競走場では平成元年12月12日より、場内スタンド1階の第2投票所横にキャッシュコーナー（現金自動支払機）を設置し、使用を開始した。

これは、カード時代を反映しての強い要望に応えたもので、香川県を本拠地とする百十四銀行の丸亀支店が、競走場出張所を開設し設置したもので「香川ふるさとネットワーク」（銀行、信用金庫、信用組合、農協、労金等）加盟の金融機関および全国地方銀行のCDカードも使用可能。なお、全公営競技の競走場内および専用場外発売所内にキャッシュコーナーを設置したのは、公営競技史上初めて。

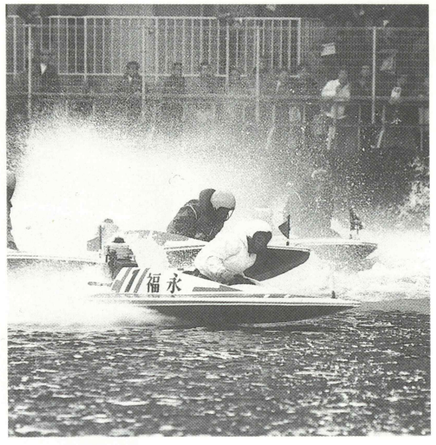
12月19日　第4回賞金王
決定戦競走で売上249億円を記録

第4回賞金王決定戦競走（賞金王シリーズ競走含む）が12月14日から19日までの6日間住之江競走場で開催され、業界初の200億円を大幅に上回る節間売上249億650万円を記録した。

これまでの節間売上は、住之江競走場が10月の第36回全日本選手権競走で記録したばかりの196億円。今回の記録は、臨時特別場間場外利用者の増加（対前年比266.6%増）、本場入場者の増加（対前年比11.6%増）などの要因が考えられる。

売上の内訳は、本場105億8,000万円、場外発売143億2,000万円となっている。

なお同競走では、1レース売上36億483万円、1日売上91億9,455万円を記録し、すべての売上記録の更新を果たした。



★流行語／ベレストロイカ★フリーター★マドンナ旋風★セクシャルハラスメント
★流行歌／「酒よ」吉幾三★「DIAMONDS」プリンセス・プリンセス★「風の盆恋歌」石川さゆり
★テレビ／青春家族★イカスバンド天国★CM／デューダ退社編（学生援護会）★24時間戦えますか（リゲイン）
★映　画／黒い雨★魔女の宅急便★レインマン（米）★書物／「TUGUMI」吉本ばなな★「一杯のかけそば」栗良平

平成2年

競艇場クリーン大作戦の推進を決定／年間売上2兆円を突破

1月26日　スタート事故（選手責任）規制強化
2月15日　スタート練習、展示一括方式の導入推進
4月12日　競艇場クリーン大作戦の推進を決定
4月12日　多摩川競走場で気泡式ライン表示装置採用
5月8日　第17回笹川賞競走で節間売上275億円の新記録を樹立
5月11日　(財)モーターボート競走近代化研究センター設立
6月29日　法制定40周年記念事業実行委員会設置
7月19日　笹川会長、ニクソン元米国大統領の記念図書館開館式に招かれる
7月26日　豪華化粧室「レディースルーム花真珠」オープン
9月11日　戸田競走場で大学対抗壁画コンテスト開催
9月26日　グランドチャピオン決定戦競走新設
10月4日　(社)日本モーターボート選手会創立30周年記念式典挙行
12月14日　ボートピア姫路竣工
12月18日　第5回賞金王決定戦競走で1億円レーサー4人誕生～節間売上305億円を達成～
12月31日　年間売上2兆円を突破

1月26日 スタート事故（選手責任）規制強化

「スタート事故の防止」は、モーターボート競走が始まって以来の重要な課題であり、過去にも種々の防止策が実施されてきた。

これら施策の中でも特に、昭和42年に導入された「スタート事故者のあっせん辞退」はその抑止力としての効果が大きいことから、以後数回の改正を経て、昭和59年11月からはフライング、出遅れとも“事故本数に関係なく一律30日の辞退”となり、今日に至っている。

しかしながら、競走の魅力を著しく低下させる「スタート事故」は、ここ十数年、横這いの傾向にある。たとえば、昭和53年度に設定した業界の「スタート事故防止目標0.35」を達成したのは、昭和58年度と平成元年度の2回だけ。それ以外は0.37～0.38にとどまっている。

一方、特別競走におけるスタート事故の多発、特にSG競走の優勝戦におけるフライング事故の発生や、その他大事な場面での同事故の多発は、全競走場参加による臨時場間場外発売が行われている現在ではお客様に与える影響も大きいとして、関係者からは“スタート事故規制強化”の要望が出されていた。

これらの状況から、連合会会長の諮問機関である競技運営研究委員会は、「スタート事故防止策について」検討を行っていたが、平成元年11月27日付で、現行のスタート事故1件につき一律30日辞退を、“フライング本数に30日を乗じた期間”にするあっせん辞退日数の見直し、等の答申を行った。

この答申に基づき、平成2年1月26日に開催された連合会常任役員会は「特別競走開催要綱」の一部改正を審議。SG競走選考期間内のスタート事故件数は2件以内（賞金王決定戦は除く）、優勝戦におけるスタート事故者は翌年の同競走までSG競走の選考対象から除外する、等を決定した。

また、日本モーターボート選手会においてもこの答申に基づき、1月30日付で「競走の出場辞退に関する規程」の一部改正が行われた。

なお、改正されたスタート事故（選手責任）によるあっせん辞退制度は平成2年5月1日から、特別競走開催要綱の改正は平成2年度のモーターボート記念競走から、それぞれ適用されることとなった。

2月15日　スタート練習、展示一括方式の導入推進

連合会は、2月15日開催の「平成元年度第2回審判委員長、競技委員長会議」において昭和63年6月から江戸川競走場、翌平成元年9月から浜名湖競走場で採用されているスタート練習、展示一括方式のレース進行について、施行者との調整が済みしだい各地で導入するよう依頼し、了承を得た。

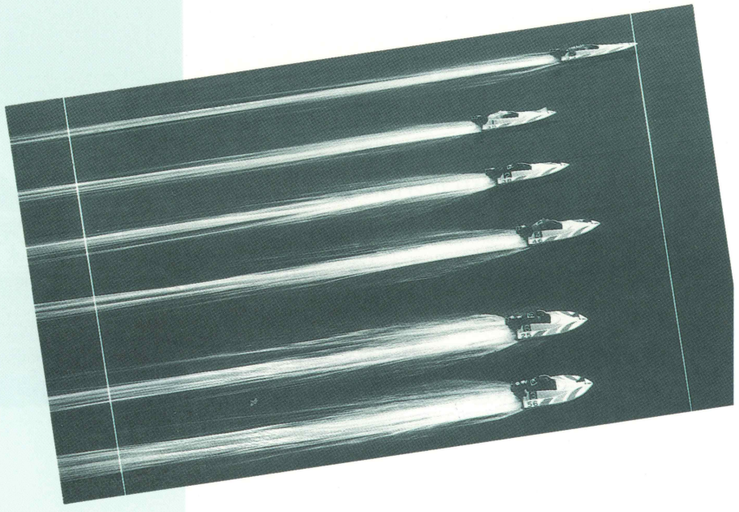
モーターボート競走におけるスタート練習の時期については、過去、前レースの本番前に実施する方法と、スタート練習、展示を一括して行う方法の、2方式がとられていた。だが、同一競技で異なった方式を採用するのはお客様にとまどいを感じさせるとして、昭和45年9月、22競走場が行っていた前レースの本番前に実施するという方法で全国統一がなされた。

その後、昭和63年3月に開催された「審判委員長、競技委員長会議」において、江戸川競走場から、スタート練習と展示航走を一括して行いたいとの要望が出された。これに対し大半の意見は、「お客様にとっては分かり易く、レースとレースの区切りもはっきりする。しかし、舟券の発売時間等を考慮すると発売時間との絡みもあり難しい。だが、場単位ならばよいであろう」というものであった。

江戸川競走場では早速、この一括方式を同年6月より採用。お客様の評判も「レースの区切りが分かり易い」と上々であった。

この方式は翌平成元年9月、浜名湖競走場でも採用され、お客様の好評を博したことから、連合会では平成2年2月15日開催された「審判委員長、競技委員長会議」において、SG競走の場間場外発売が行われテレビ中継等も実施されている中で、さらに分かり易い競技進行を行うためにも、今後は施行者との調整を行いながらこの方式を順次導入していただきたい旨、各地競走場に依頼した。

その結果、平成2年4月から12月にかけて残るすべての競走場でこのスタート練習、展示一括方式が採用され、全国統一がなされた。



●政治経済

6月29日／天皇家の次男、礼宮文仁親王殿下と学習院大学院生、川嶋紀子様がご結婚。礼宮様は皇室8番目の「秋篠宮」として独立。
2月28日／第2次海部内閣が誕生。
2月18日／消費税問題が最大の争点となった第39回衆議院総選挙が行われ自民党が安定多数を確保。
1月24日／第117回通常国会で衆議院解散。

12月29日／第2次海部改造内閣が発足。
11月12日／皇居宮殿で天皇の即位を内外に宣言して祝う「即位礼正殿の儀」が行われた。
10月12日／自衛隊の海外派遣を争点とする国連平和協力法案を臨時国会で審議。11月8日の衆議院で廃案となる。
8月5日／政府はクウェートに侵攻したイラクに対する経済制裁を決定。

4月12日 競艇場クリーン大作戦の推進を決定

ファン拡大推進委員会は、4月12日開催の第31回同委員会において、モーターボート競走のさらなるイメージ向上のため、当面の最優先策として“競艇場クリーン大作戦”を推進することを決定した。

モーターボート競走場は、早い時期に施設改善に着手し、一般のレジャー産業の施設やサービス等と比較しても遜色はないと評価されてきた。しかしながら近年は、一般レジャー産業における施設は高級化志向を強め、これを利用するお客様はさらに優れたサービスを受けられるようになってきている。

これら施設と比べた場合、競走場は若干の見劣りが、またサービス面では明らかな遅れが認められる状況にある。

これまでにも、業界は競走のイメージアップを図るため、幾つかの運動を行ってきた。

たとえば「笑顔でおはよう、こんにちわ運動(昭和39年)」「緑いっぱい、花いっぱい運動(昭和41年)」「サービス精神昂揚運動(昭和43年)」「場内美化運動(昭和45年)」「3S運動“清掃、清潔、サービス”(昭和46年)」等々で、それぞれに成果を上げている。

しかし残念ながら現在の競走場には、一般的な見方として「くらい、きたない、こわい」とのマイナス・イメージがあることも否めない。これは業界が最も避けるべきイメージであって、「競艇場」は、むしろ一般のレジャー施設よりも“さらに明るく、楽しく遊べる場所”でなければならない。

またサービスということでは、いまや一般企業にあっても常に長期的視野に立ってのサービス向上、そのための施設の改善を推進する時代である。たとえば、その代表的な例として、ファミリーレストラン、ホテル、デパート、遊園地などが挙げられよう。

業界は今後、時代に合ったファン拡大策として、若年層と女性をターゲットに施策を進めていかなければならない。この新しいターゲットを射止めるためにも、より良い雰囲気づくり、より良いサービスの提供は必要かつ急務であった。

若者たちはいま、ギャンブルをもレジャー感覚、遊び感覚で受け止めている。こうした若者の心を魅了するには、まず、競艇場を明るい雰囲気にし、楽しく遊べる場としてすべての施設を整え、サービスの向上に努めて、「明るい、きれい、楽しい」というプラス・イメージに転換していかなければならないのである。現状のままでは、世の中の変化に対応できない企業として、業界全体が時代に取り残されることも考えられる。

「競艇場クリーン大作戦」はこのような観点から決定され、平成2年5月より、全競走場で実施されている。

8月21日／森重文京都数理解析研究所教授が「数学のノーベル賞」と呼ばれるフィールズ賞受賞。
4月1日／大阪・鶴見緑地で国際花と緑の博覧会が開幕し、9月20日閉幕。総入場者は2、312万人余。
1月22日／東京・上野のJR御徒町駅の新幹線工事現場真上で陥没事故。

4月12日 多摩川競走場で気泡式ライン表示装置採用

東京都競走会では、昭和50年当時山口県競走会が研究していた「水上へのライン設置」を発展的に引き継ぎ、競走水面上にスタートラインを表示することが可能かどうかを探るべく、日本造船振興財団筑波研究所（現シップ・アンド・オーシャン財団）に、水と圧縮空気を噴射して気泡ラインを作り出す研究を依頼していた。

その成果を結集させたものとして、平成元年10月23日に同研究所で公開実験を行い、見事に成功を収めた。

以後、装置の本格的採用に向けて同競走会は積極的に動き、これに共鳴し多摩川競走場が導入を決定した。平成2年3月28日、多摩川競走場において完成の試運転調整が行われその結果何ら問題はないとして、翌29日、報道関係者にこの気泡式ライン表示装置の公開説明会を実施、4月12日、本格使用を開始した。

「気泡式ライン表示装置」は、スタートライン手前5㍍、水深1.5㍍のところに給水管と圧縮空気管の2系統の管を、長さ56㍍にわたって設置したもので、給水管には1.5㍍間隔で37個のノズルが取り付けられており、そのノズル中央より本体から送られてくる水を噴出させる。噴射口の周囲には空気を送り出すためのスリットがあり、これを同時に一斉噴出させることによって、水面上には高さ30㎝周囲60㎝の気泡、いわゆる“泡”ができる。その37個の泡の連続によって、56㍍のラインを作り出す～というものである。

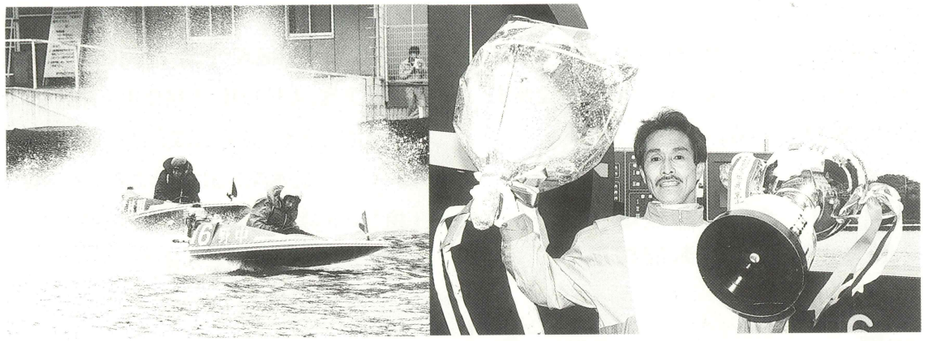
この“ライン”の主な目的は、選手にスタートラインの目安を与えることと、お客様に対してはより魅力的な演出効果を楽しんでいただこうというものである。

選手にもお客様にも好評のこの装置は、今後、他の競走場でも導入されていくことが強く期待されている。

5月8日 第17回笹川賞競走で節間売上275億円の新記録を樹立

ファン投票によるオールスター戦・第17回笹川賞競走が、5月3日から8日までの6日間、住之江競走場で開催され、艇界の第一人

12月7日／イラクは日本人人質全員の解放を決定。残されていた78人が12日帰国。
12月2日／東京放送の宇宙特派員秋山豊寛さんらを乗せたソユーズTM11号ガソ連で打ち上げられ10日帰還。日本人初の宇宙飛行。
8月24日／わが国初の生体部分肝移植手術を受けた杉本裕弥ちゃん（1.9才）が死亡。



者・野中和夫選手が人気に応えて優勝した。また売上面では、節間売上275億円という艇界記録を樹立した。

開催前の売上目標は、昨年12月に記録した第４回賞金王決定戦競走の売上249億円を参考に本場140億円、場外110億円、合計250億円という数値であった。

ところが実際には、この売上目標をはるかに上回る、本場148億8,000万円、場外126億7,000万円、合計275億5,714万6,600円という艇界売上レコードを樹立、しかも最終日５月８日には、１日売上が108億円にも達し、さらに、優勝戦の１レース売上も41億円を記録、すべての艇界記録を更新したものである。

そして、この「275億円」という売上記録は業界に「300億円」という新たな目標を示すこととなった。

5月11日　(財)モーターボート競走近代化研究センター設立

最近の、モーターボート競走を取り巻く情勢は急で、お客様の地域的交流圏の拡大、あるいは情報通信機器等の技術の進展によって競走運営の形態も大きく変革している。

今後も、モーターボート競走事業には、情報化時代に対応した情報システムの充実、競走場施設・設備の改善、整備、専用場外の設置等、多様化の進む社会とお客様のニーズに調和していくための、より一層の努力が求められている。

こうした状況下、高度化・多元的な情報化時代に即応した情報サービスの提供とその質的向上を図るため、(財)モーターボート競走近代化研究センター設立の気運が高まってきた。

モーターボート競走近代化研究センターの目的は、情報サービスのシステム化、ネットワーク化に関する調査、研究開発と、これら開発の成果の確認と普及のための情報関連機器および施設を中心としたリース貸付事業等を行い、これを通じてモーターボート競走の近代化、合理化の促進ならびに競走事業の発展を支援する…というものである。

(財)モーターボート競走近代化研究センター設立許可申請書は、平成２年４月12日付運輸大臣宛に提出された。

その結果、平成２年５月11日付で運輸大臣より認可がおり待望の発足へ。その成果が大いに期待される。

8月2日／イラクがクウェートに侵攻、国連安保理の即時撤退要求を無視して8日、自国への併合を宣言。在留西側男性を人質とする。日本人人質213人。
6月10日／ペルー大統領に日系2世のアルベルト・フジモリ氏当選。
2月11日／終身刑で服役中だった南アフリカ共和国の黒人解放運動指導者、ネルソン・マンデラ氏釈放。
1月11日／中国の北京市中心部に敷かれていた戒厳令が約8カ月ぶりに解除。

6月29日　法制定40周年記念事業実行委員会設置

モーターボート競走は平成３年６月、競走法制定以来「40周年」を迎える。

業界はこれを記念して、40周年という節目にふさわしい記念事業を企画し、モーターボート競走を日頃よりご愛顧いただいているお客様や、競走運営に深いご理解をいただいている競走場周辺住民の方々に対する感謝の気持ちを表すとともに、競走の有益性を広く社会に訴え、また将来に向け競走事業の一層の発展を期すべく、ファン拡大推進委員会の下に「法制定40周年記念事業実行委員会」を設置した。さらに、その下には専門部会として①式典実行委員会　②トータルファッション開発委員会　③広報、宣伝委員会　を設けることを、６月29日開催の第32回ファン拡大推進委員会で決定した。

第１回の実行委員会は８月９日に開催され40周年記念事業の基本的な考え方について審議を行った。具体的な各事業の推進方法および資金計画等については、各部の委員会において検討し、詳細な実施計画を同委員会に諮ることとなった。

7月19日 笹川会長、ニクソン元米国大統領の記念図書館開館式に招かれる

笹川会長は、７月11日から21日までアメリカを訪問。この間、ニクソン元大統領の記念図書館の開館式に招かれ、温かい歓迎を受けた。式典にはブッシュ大統領をはじめレーガン前大統領、フォード元大統領らも参加、別室で会長夫妻を待ち受け、旧交を温め合う場面もあった。なお今回の訪米には笹川静江夫人も同行、熱烈な歓迎を受けた。

７月19日に行われたこのニクソン元大統領の記念図書館開館式に、笹川会長が正式ゲストとして招かれたのは、(財)日本船舶振興会がこの図書館建立に協力援助金百万ドルを寄贈したことのほか、民間レベルで日米親善に大きく寄与していること、などによる。

この日は、４人の“現職ならびに歴代大統領”がそれぞれ夫人同伴で出席するとあってマスコミの取材も加熱気味。華やかな式典となった。

ニクソン元大統領は夕刻のレセプションに先立ち、会長夫妻に「このたびの大変なご好意を、心から感謝してます」と、歓迎の意を表明。笹川会長も「ニクソン大統領のお蔭で沖縄が戻ったことを、日本国民は忘れていませんよ」と応えた。

7月26日　豪華化粧室「レディースルーム花真珠」オープン

下関競走場では、地域とともに発展することをテーマに、“常に地元住民に親しまれる競走場づくり”を目指してきた。そうした中、近年では入場者の一割を常時女性客が占めるようになってきていることから、女性のお客様により一層のサービスを図って日頃の感謝の気

11月22日／サッチャー英首相辞任表明。新首相には28日、メジャー蔵相が就任。
10月15日／ゴルバチョフ大統領にノーベル平和賞。
10月3日／戦後45年の分断を経て東西ドイツが10月3日午前零時、統一され、ドイツ連邦共和国が誕生。

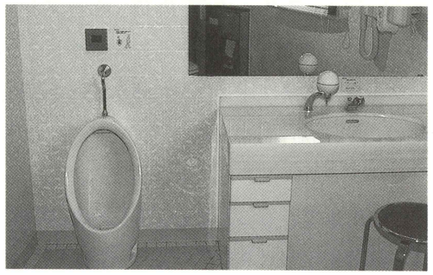
持ちを表したいとして、場内に、総工費3,300万円をかけた女性専用の化粧室「レディースルーム花真珠」を建設。7月26日にオープンした。

“女性専用”のこの化粧室は、ゆったりとくつろいだ気分で身嗜みが整えられるというコンセプトで貫かれており、従来の公営競技場ではちょっと見られない豪華さである。

たとえば、建物は鉄筋平屋（64m²）造り。壁はシックなレンガ色。入口は自動ドア。トイレ・洗面台を備えた4個室に、小鳥のさえずりが流れるホテルのロビーのような休憩室。フロアには、ピンクを基調としたじゅうたんが敷きつめられている、等々。

さらには、案内係をかねた2人の女性「専任ガードマン」が常時待機していて、優しい笑顔でお客様を迎える～といった徹底したサービスぶりである。

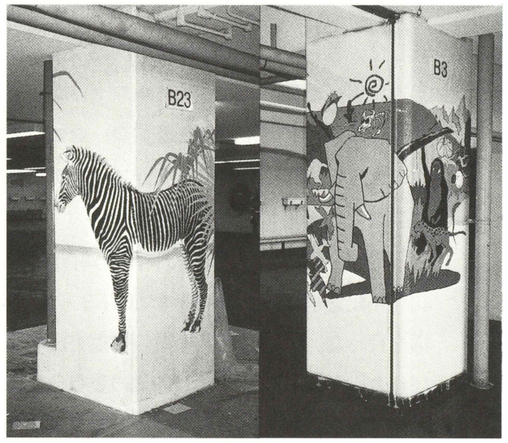
この“トイレ”の名称は、一般から募集し250件の応募の中から「レディースルーム」と「花真珠」が選ばれて、最終的に『レディースルーム花真珠』と名付けられた。



9月11日　戸田競走場で大学対抗壁画コンテスト開催

戸田競走場では、“お客様に精神的な豊かさを与えるサービスの実施”を基本としたイメージアップに努めているが、その一環として、競走場にも夢を感じさせる絵や遊びの空間があってもよいのではないか…との考えから、場内や柱の壁面を利用した、美術大生による大学対抗壁画コンテストを開催した。

この企画は、昨年9月、西門側中央スタンドの壁面に縦18㍍、横13㍍の日本一大きいトリックアートを完成させ、地元住民やお客様



の間で“壁画のある競走場”として親しまれていることから、その「壁画企画第2弾」として実施されたものである。

コンテストは、東京芸術大学をはじめ5つの大学で美術を学んでいる学生28名が、6つのグループに分かれ、「柱がぼくらのキャンパスだ」を合言葉に、テーマは“植物”“動物”“自由”ということで開始され、制作には、7月14日から延べ34日間が費やされた。

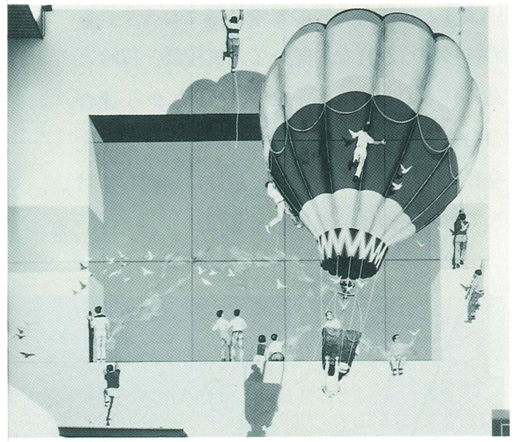
この「壁画」は、競走場の1階、2階、5階の柱や壁に約100ヶ所、描かれている。

★大相撲名古屋場所で2場所連続優勝した大関旭富士が第63代の横綱に昇進。
★テレビアニメ「ちびまる子ちゃん」ブーム。テーマ曲も100万枚へ。
★株暴落。バブル経済破綻。

コンテストの審査は、完成も間近となった8月29日から9月3日までの間に、チーム別審査と一般ファン投票が、完成した9月11日に最終審査が、それぞれ行われた。

その結果、いずれの作品も甲乙がつけがたいとして“全員がグランプリ受賞”となった。

空間を巧みに利用した大胆な表現で、人の目を楽しませ、競走場にかつてないさわやかさ、明るさをもたらした「壁画」は、戸田競走場のイメージアップのみならず“競走場クリーン大作戦”のひとつの方法を提示したものとして高く評価されている。



9月26日　グランドチャンピオン決定戦競走新設

6月26日開催の第32回ファン拡大推進委員会において、法制定40周年記念事業の一つとして、継続的に臨時場外発売のできる特別競走を新設することが合意され、これを受けて特別競走設置研究委員会が設置された。

特別競走設置研究委員会は、新設する競走の内容について検討を重ね、その結果を9月26日に開催された第33回ファン拡大推進委員会に報告。新設競走は「グランドチャンピオン決定戦競走」（SG競走）として、継続して毎年6月に実施することが決定した。

続いて、同日開催された連合会常任役員会において関連規程「選手出場あっせん規程」の一部改正が審議され、承認可決された。

さらに、同日付で運輸大臣宛認可申請が提出され、10月5日付で認可がなされた。

「グランドチャンピオン決定戦競走」は、前年度の5大特別競走の優勝戦に進出した選手を優先的に出場させ、さらに、全予選競走（最低5回以上）の着順点合計の高い選手を選出し、50名の選手によって実施する－というもので、法制定40周年記念にふさわしいビッグなレースとして期待されている。

なお、第1回グランドチャンピオン決定戦競走は平成3年6月、住之江競走場で開催されることとなった。

10月4日　(社)モーターボート選手会創立30周年記念式典挙行

(社)モーターボート選手会創立30周年記念式典が10月4日、帝国ホテル孔雀の間において、関係者、400名の出席を得て盛大に挙行された。

選手会の、現在に至るまでの経緯を簡単に振り返ってみると、草創期は選手間の相互救済および親睦を図るため、各地競走場を中心に都府県を単位とした選手会が相次いで設立された。その各地選手会の連携を図るため昭和28年12月に「全国モーターボート選手会連合会」が結成される。次いで昭和32年1月には、選手会業務を引き継いだ全国モーターボ

★日本人女性の平均寿命81・77才。男性は75・91才でともに世界一。
★近鉄、野茂投手三振旋風タイトル独占。
★プロボクシング無敵タイソン日本でKO負け。

ート選手会連合会によって、選手賞金の改善をはじめ共済制度の実施等に力が注がれた。

その後、組織の法的な裏付けを図るべく公益法人化のための努力が続けられ、昭和35年10月29日、(社)日本モーターボート選手会が設立認可され発足、現在に至っている。

式典は国歌斉唱で始まり、次いで選手会安岐義晴会長から「この30年間、適切なご指導をいただいた監督官庁の運輸省をはじめ連合会笹川会長、ならびに関係各位に、心からお礼を申し上げますとともに、今後なお一層のご指導ご支援をお願い申し上げます。また、殉職された選手の方々の尊い命を無駄にしないよう、業界の一層の繁栄に尽くします」旨の挨拶が行われた。続いて来賓祝辞、祝吟と進み、そのあと、選手会安岐会長から連合会会長をはじめとする関係団体、選手会歴代会長等に感謝状が贈られ、最後に殉職者に対して黙禱を捧げ、無事終了した。

12月14日
ポートピア姫路竣工

モーターボート業界待望の本格的専用場外発売場「ポートピア姫路」は、富士レックス株式会社が、兵庫県姫路市魚町で経営していたホテルの跡地に建設を計画。昭和63年5月に着工し、平成元年12月14日竣工の運びとなった。

ボートピア姫路には本館と別館があり、その規模は、本館が敷地面積1,026m²、建築面積4,104m²、地下2階・地上5階、窓口数＝発売41窓・払戻9窓、収容人員1,500人。別館が敷地面積499m²、建築面積1,997m²、地下1階・地上5階、窓口数＝発売4窓、払戻2窓、収容人員59人というもの。現代建築の粋を凝らした、シャープで華麗な外観とハイグレードな雰囲気…、各フロアもお洒落なレジャー感覚でいっぱいだ。

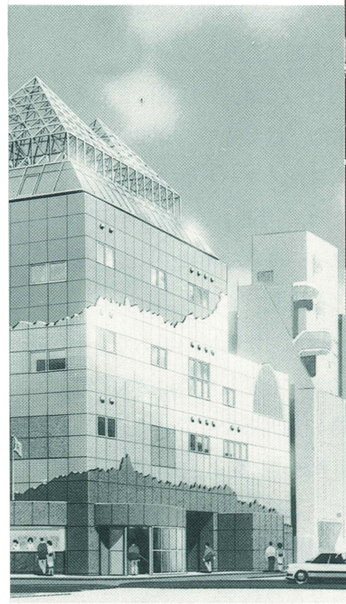
またロケーションも、姫路駅からわずかに5分、市内有数の繁華街「魚町」という好位置である。

直線的でメタリックな輝きを帯びた本館。特に地下1階、2階、3階、4階の各フロアには、刻々変化するレース展開を鮮明に捉えて放映するスーパーワイドビジョン(1.5×6㍍)をはじめ投票窓口上部の3連モニター、情報コーナーの6連モニターなど、最先端のニューメディアが導入されており、あたかもレース場にいるかのような臨場感が味わえる。勿論、各種情報もリアルタイムで“見る”ことができる。

また、1階にはカレー専門レストラン「フーズバー・ピア」や、売店もあるなど、きめ細かな心くばりがなされている。

一方別館は、地下1階が160台収容の駐輪場。2階、3階は、よりゆったりと機能的にレイアウトされていて、中型ワイドビジョンにより落ち着いた映像情報が得られるほか、モニターテレビ内蔵のテーブルも用意されている。また、コンパニオンによる飲食サービスも受けられるなど、エグゼクティブな雰囲気ともてなしで、心ゆくまでレースをご堪能いただける。ここは文字どおりの「VIP(会員専用)の社交場」となっている。

さらに別館4階は、コミュニティスペースとして和室、洋室の各集会室が設けられ、地域住民の皆様の親睦の場としてご利用いただけるようになっている。

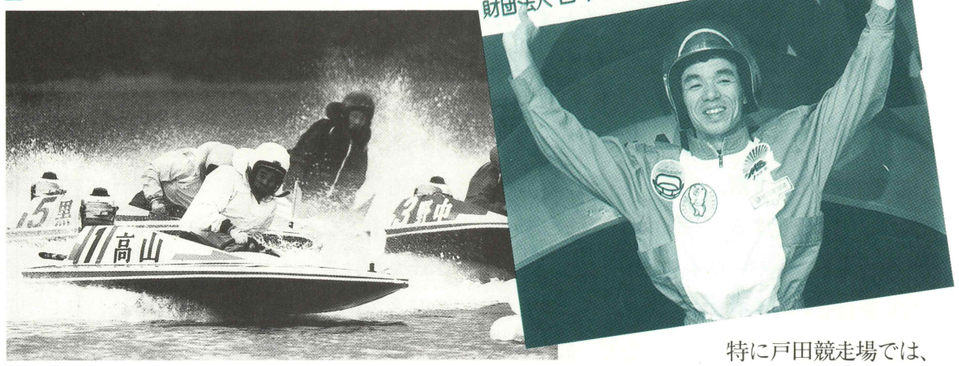


「ボートピア姫路」は、とりあえず本館が平成3年1月9日にオープンし、お客様から喜ばれている。

★流行語／おやじギャル★ファジー★イタめし★バブル経済★人面魚★愛される理由★もっとハシッコ歩きなさいよ★三高
★流行歌／おどるポンポコリン★恋唄綴り★愛は勝つ★さよなら人類
★テレビ／ちびまる子ちゃん★翔ぶが如く

★CM／一番搾り（キリンビール）★NTTイメージコマーシャル★鉄骨飲料
★映画／天と地★バックツゥザフューチャー3
★書物／「真夜中は別の顔」シドニィ・シェルダン★「愛される理由」二谷友里恵★「NOと言える日本」（盛田昭夫・石原慎太郎）

12月18日
第5回賞金王決定戦競走で1億円レーサー4人誕生
～節間売上305億円を達成～



第５回賞金王決定戦競走は12月18日、大阪住之江競艇第12レースで、トライアル２戦の得点上位６選手により、プロスポーツ競技最高の優勝賞金4,000万円をかけて争われた。

レースは１コ--スからトップスタートを決めた高山秀則選手が、イン速攻で快勝。優勝賞金4,000万円を獲得した。これにより、獲得賞金第４位で出場した同選手は、今村、新井、野中選手を抜く「獲得賞金１億2,539万円」となり、賞金ランキングでもトップに立った。

同時に“１億円レーサー”も、すでに１億円突破の今村、新井両選手に加え、高山選手そして３位入着の野中選手も１億円を超えたため、一挙に４人の誕生となった。

さらにこのレースでは、売上面でも目標の300億円を突破し、節間売上305億円、１日売上119億円、１レース売上48億円と、艇界の記録をすべて更新する。

この売上記録達成は、場間場外発売によるところが多く、本場113.4億円、場外191.6億円と、数字的にもはっきりと現れている。

特に戸田競走場では、３日間合計24億3,000万円の売上げを果たし関係者を驚かせた。

12月31日
年間売上２兆円を突破

平成２年のモーターボート競走の売上は２兆1,499億円、対前年比15%の伸び率を示し２兆円を大幅に上回る過去最高となった。

この好調の要因としては、好景気に支えられた場内売上の増加、SG 競走での場間場外発売の定着が、さらにはスタート事故等による返還金も202億円、対前年比7.3%減を示しており、こうしたスタート事故の減少も売上増に貢献したものとして挙げられる。

１日平均売上が増加した場は23場あり、そのうち20%以上の伸びを示したのは２場で住之江21.6%、丸亀43.2%となっている。これは、住之江が笹川賞競走、賞金王決定戦競走、丸亀がモーターボート記念競走と、両場ともSG 競走を実施し、場間場外発売の売上増がもたらした好結果と考えられる。